


2016年9月期 第2四半期 決算説明会

シミックホールディングス株式会社
2016年5月10日



2016年9月期第2四半期 決算概要

(2015年10月1日～2016年3月31日)

取締役専務執行役員CFO

望月 渉

事業セグメントとグループ各社

青字表記は海外。※印は関連会社。

セグメント	商品・サービス	シミックグループ各社（2016年3月末時点）
CRO事業	製薬企業の医薬品開発支援及び分析化学サービスに係る業務	シミックホールディングス(株) シミック(株) シミックPMS(株) シミック・シフトゼロ(株) (株)シミックバイオリサーチセンター シミックファーマサイエンス(株) CMIC, Inc. CMIC Korea Co., Ltd. CMIC ASIA-PACIFIC, PTE. LTD. CMIC ASIA PACIFIC (MALAYSIA) SDN. BHD. CMIC(Beijing) Pharmaceutical Services Co., Ltd. CMIC(Beijing) Co., Ltd.
CMO事業	製薬企業の医療用医薬品及び一般用医薬品などの製造支援に係る業務	シミックCMO(株) シミックCMO足利(株) CMIC CMO Korea Co., Ltd. CMIC CMO USA Corporation シミックJSRバイオロジックス(株) ※
CSO事業	製薬企業の医薬品等の営業・マーケティング支援及び医薬、製薬業界向けBPO・人材サービスに係る業務	シミック・アッシュフィールド(株) (株)シミックBS エムディエス・シーエムジー(株) ※
ヘルスケア事業	SMO業務、ヘルスケア情報サービスなど、主に医療機関や患者、一般消費者の医療や健康維持・増進のための支援業務	シミックホールディングス(株) サイトサポート・インスティテュート(株) (株)ヘルスクリック CMIC VIETNAM COMPANY LIMITED
IPD事業	診断薬やオーファンドラッグなどの開発及び販売に係る業務	シミックホールディングス(株) (株)オーファンパシフィック

- 2015年10月1日付で(株)応用医学研究所は、(株)JCLバイオアッセイを吸収合併し、商号をシミックファーマサイエンス(株)に変更しました。
- 2016年4月1日付でシミックファーマサイエンス(株)は(株)シミックバイオリサーチセンターを、シミックCMO(株)はシミックCMO足利(株)を吸収合併しました。

2016年9月期 上期 総括

Project Phoenix 1.0 ~ 赤字事業の解消と業績V字回復を目指して ~

- ・ **CRO事業** **日本市場参入の支援業務と非臨床業務の強化**
 - 2015年10月 (株)応用医学研究所と(株)JCLバイオアッセイを合併し、シミックファーマサイエンス(株)として非臨床業務の機能強化
 - 2015年11月 Medidata Solutionsとの連携強化によるEDCサービスの充実
 - 2016年 1月 オンコロジー領域の臨床開発・マーケティング等を支援するシミック・シフトゼロ(株)を設立
 - 2016年 2月 シミックファーマサイエンス(株)と(株)シミックバイオリサーチセンターの合併予定を公表
- ・ **CMO事業** **構造改革の推進と新規受注の獲得**
 - 2015年10月 シミックCMO足利(株)における新注射剤棟建設計画を公表
 - 2016年 2月 シミックCMO(株)とシミックCMO足利(株)の合併予定を公表
- ・ **CSO事業** **MR派遣業務の受注力強化とサービスモデル拡充**
- ・ **ヘルスケア事業** **SMO業務の新規受注獲得と経営効率化施策の推進**
- ・ **IPD事業** **黒字化に向けた売上拡大**
 - 2015年10月 (株)オーファンパシフィックがアステラス製薬株式会社より承継した「ダントリウム®」「アストミン®」を販売開始

連結損益計算書 (要約)

	2015/上期		2016/上期		増減額 (百万円)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
売上高	26,511	100.0	30,767	100.0	4,256
営業利益	542	2.0	2,052	6.7	1,509
経常利益	382	1.4	1,900	6.2	1,518
親会社株主に帰属 する四半期純利益	113	0.4	829	2.7	715
1株当たり 四半期純利益	6円33銭		44円36銭		

セグメント別売上高及び営業利益

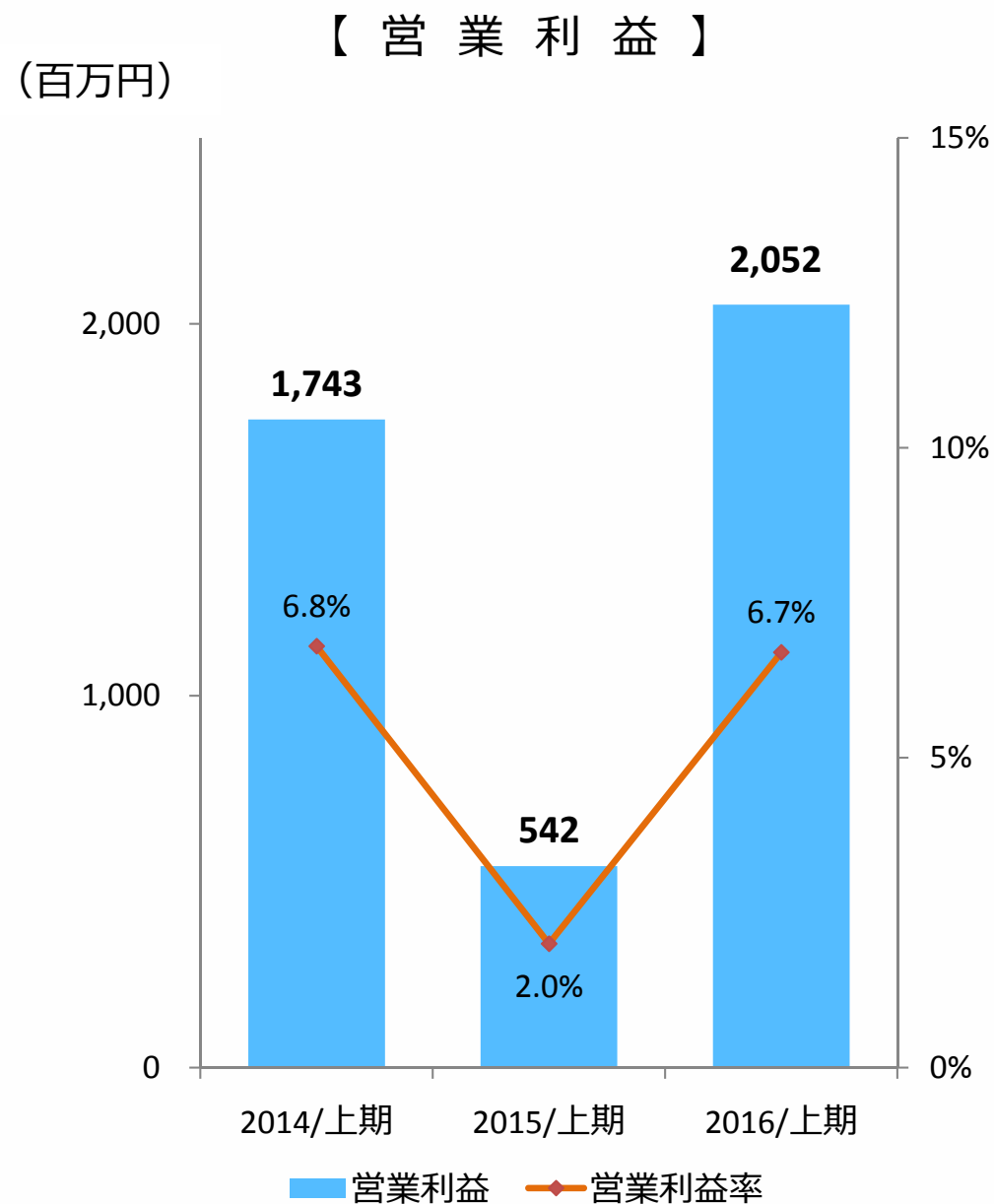
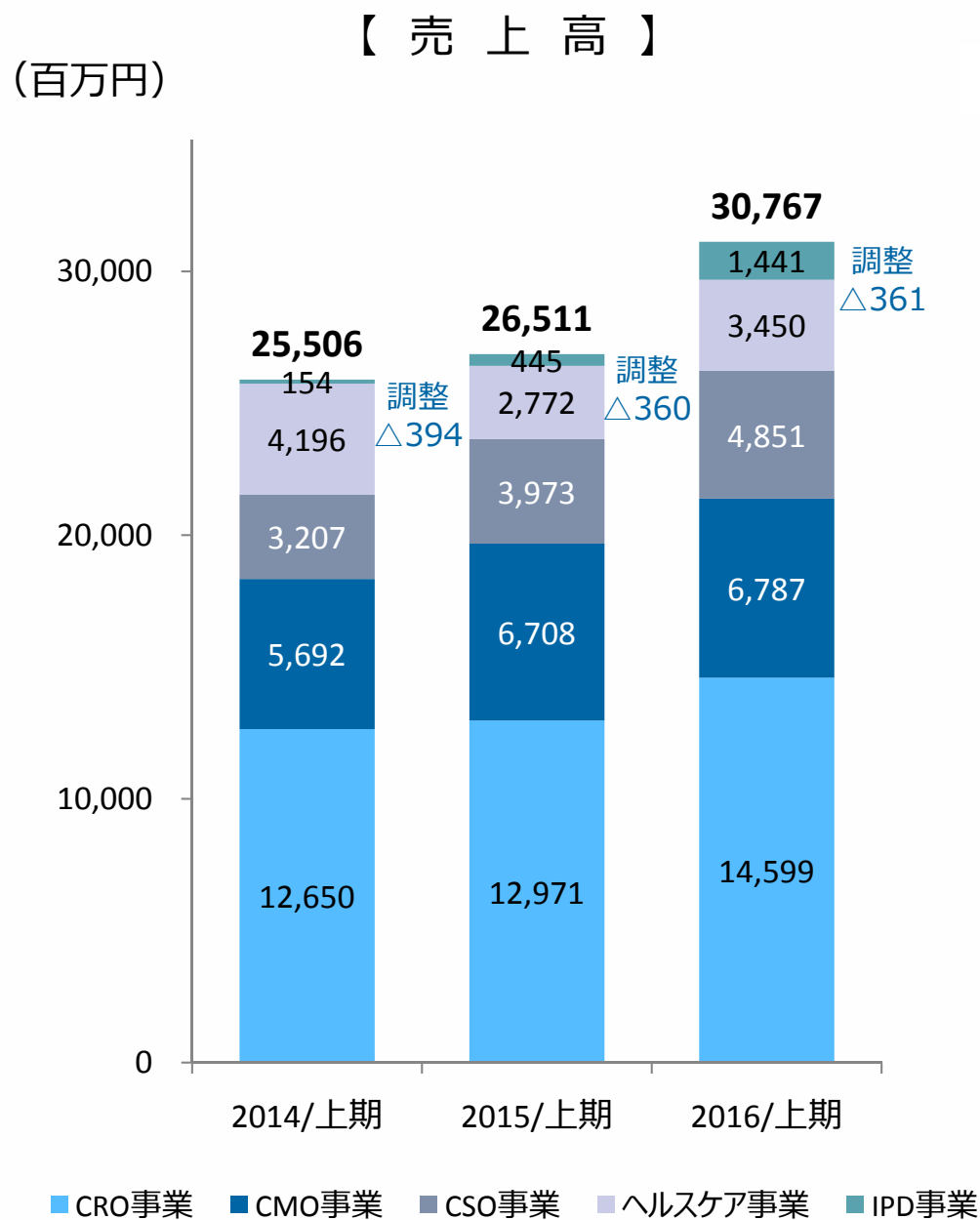
		2015/上期 金額 (百万円)	2016/上期 金額 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
C R O 事業	売上高	12,971	14,599	1,627	12.5
	営業利益	2,471	2,423	△47	△1.9
C M O 事業	売上高	6,708	6,787	79	1.2
	営業利益	△287	143	431	—
C S O 事業	売上高	3,973	4,851	877	22.1
	営業利益	176	571	395	224.6
ヘルスケア事業	売上高	2,772	3,450	678	24.5
	営業利益	△601	28	629	—
I P D 事業	売上高	445	1,441	995	223.1
	営業利益	△103	13	116	—
調 整 額	売上高	△360	△361	△1	—
	営業利益	△1,112	△1,128	△15	—
合 計	売上高	26,511	30,767	4,256	16.1
	営業利益	542	2,052	1,509	278.2

受注高・受注残高

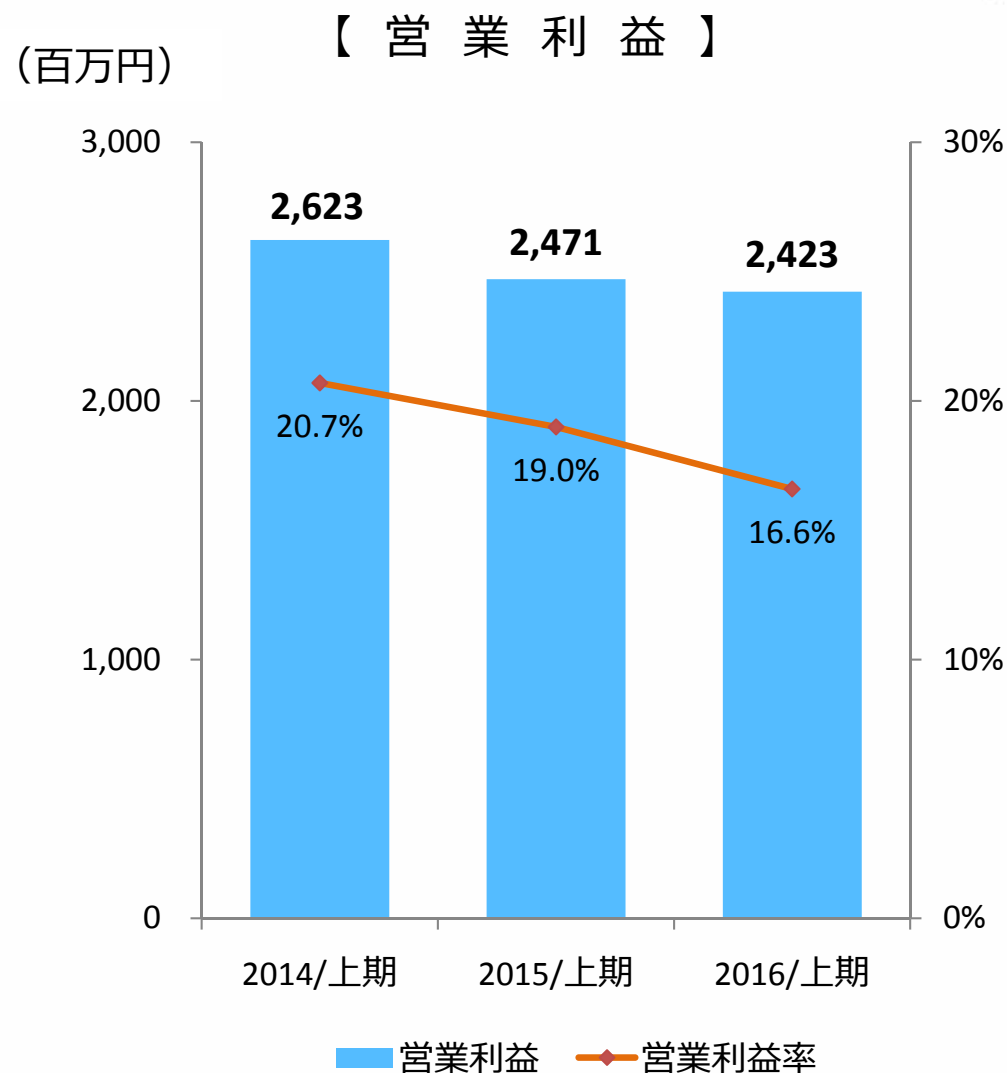
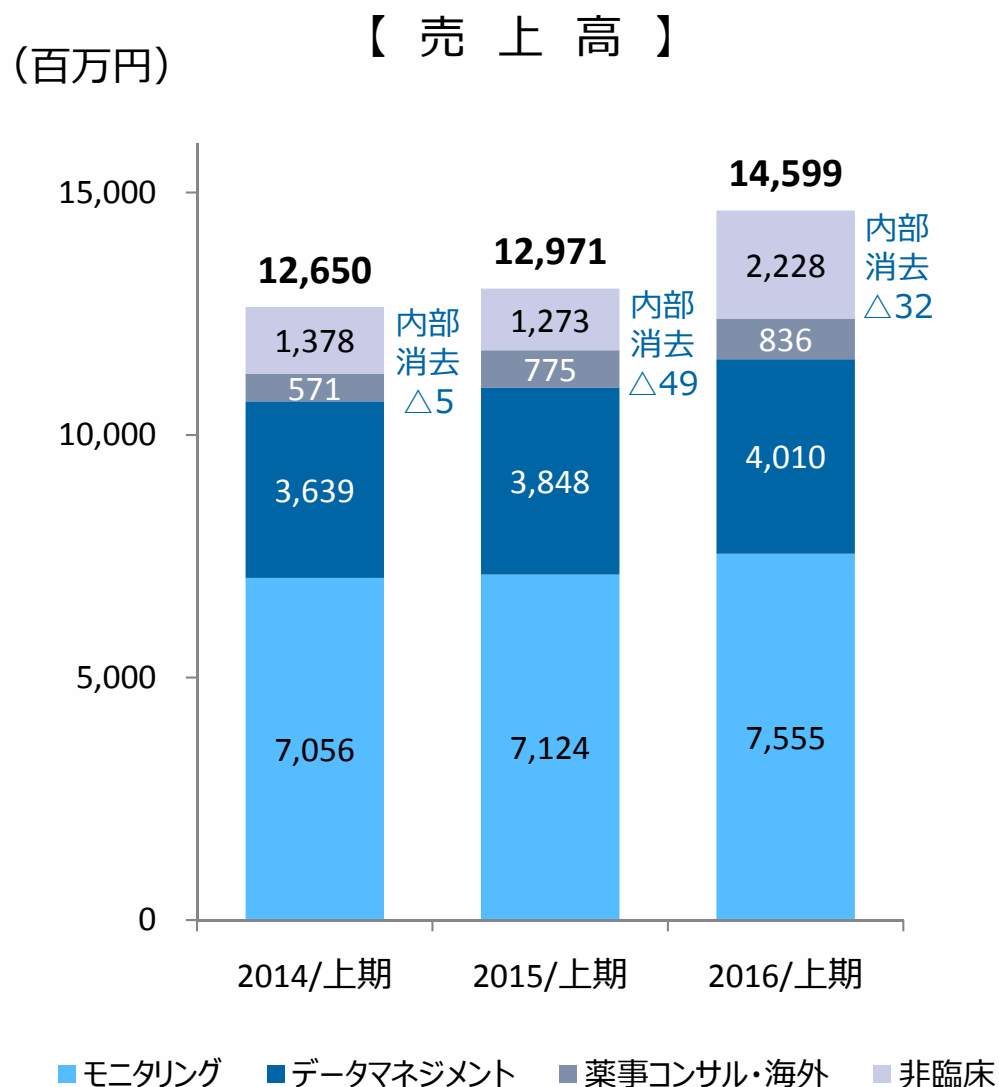
	2015/上期		2016/上期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	増減率 (%)	受注残高 (百万円)	増減率 (%)
CRO事業	17,377	42,688	13,418	△22.8	41,310	△3.2
CMO事業	6,678	3,648	7,645	14.5	4,116	12.8
CSO事業	5,692	7,461	3,414	△40.0	6,018	△19.3
ヘルスケア事業	3,273	8,802	3,705	13.2	9,194	4.4
IPD事業	368	88	1,285	248.6	215	142.7
合計	33,390	62,689	29,470	△11.7	60,856	△2.9

- ・2016/上期において、CRO事業、CSO事業の新規受注の遅れはあるが、下期には回復の見込み。
- ・2015/上期のCRO事業の受注高には、2015/上期に連結子会社となったJCLバイオアッセイ（現シミックファーマサイエンス）、CMIC, Inc.の2社の2015/3末の受注残高1,959百万円を含む。
- ・CMO事業の受注残高は確定注文を受けているもののみ計上。顧客からは年間ベースの発注計画等の提示を受けているが、確定注文とは異なるので受注残高には含めていない。

連結売上高および営業利益の推移

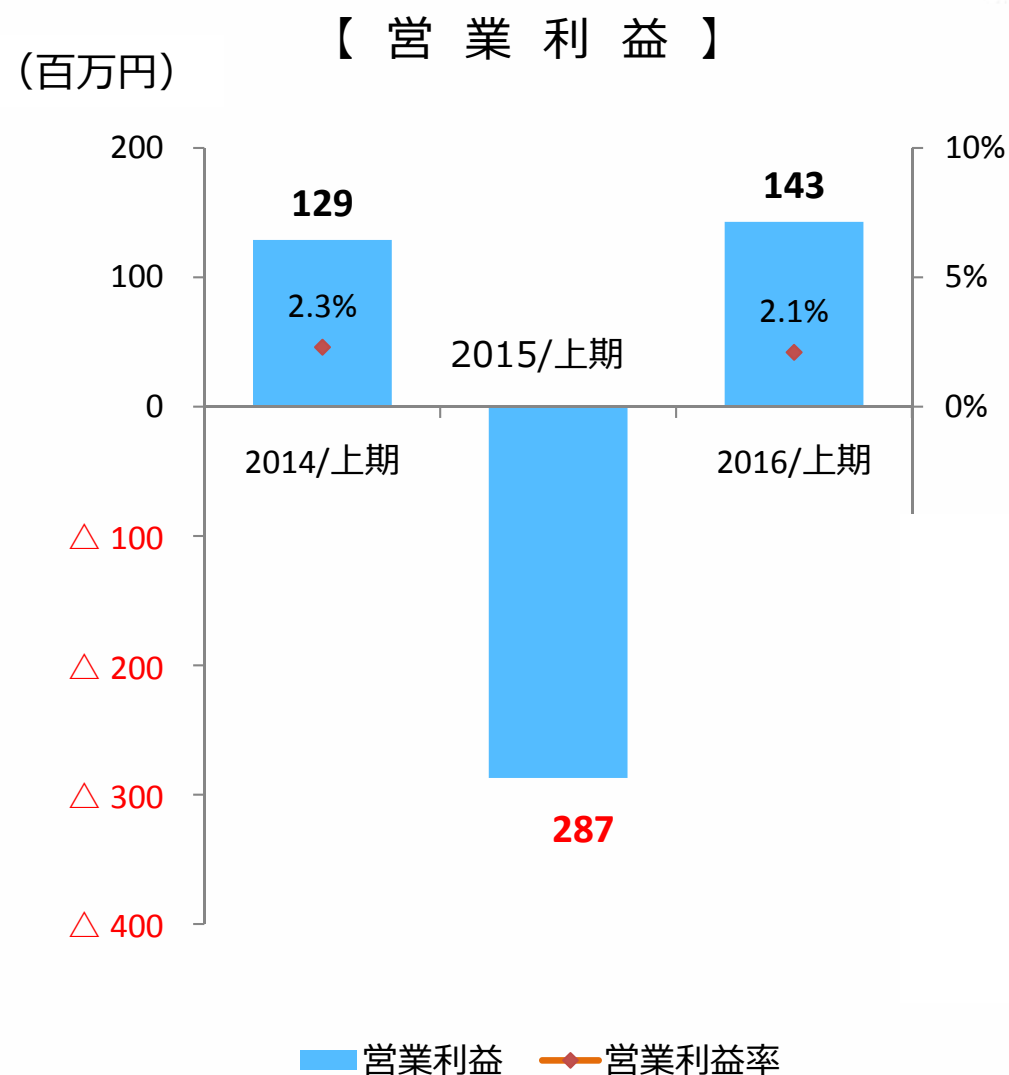
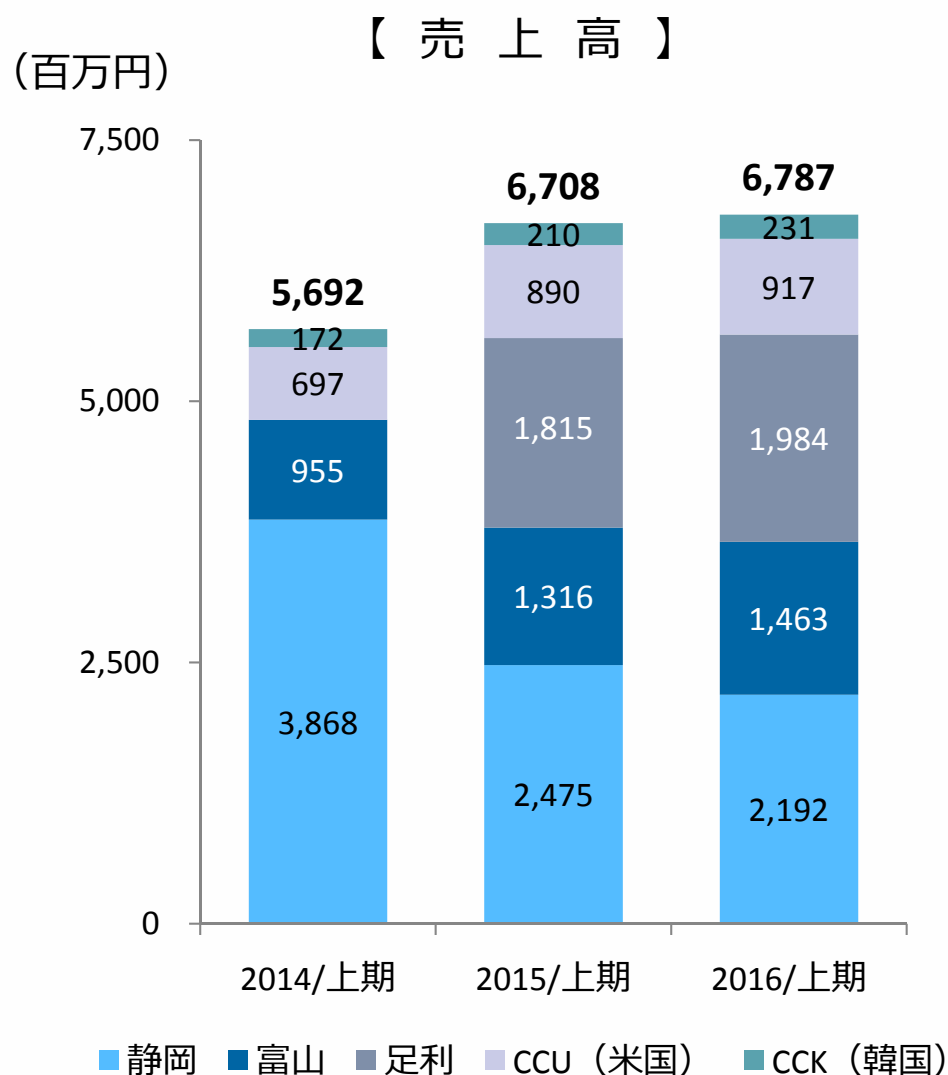


医薬品開発支援（CRO）事業



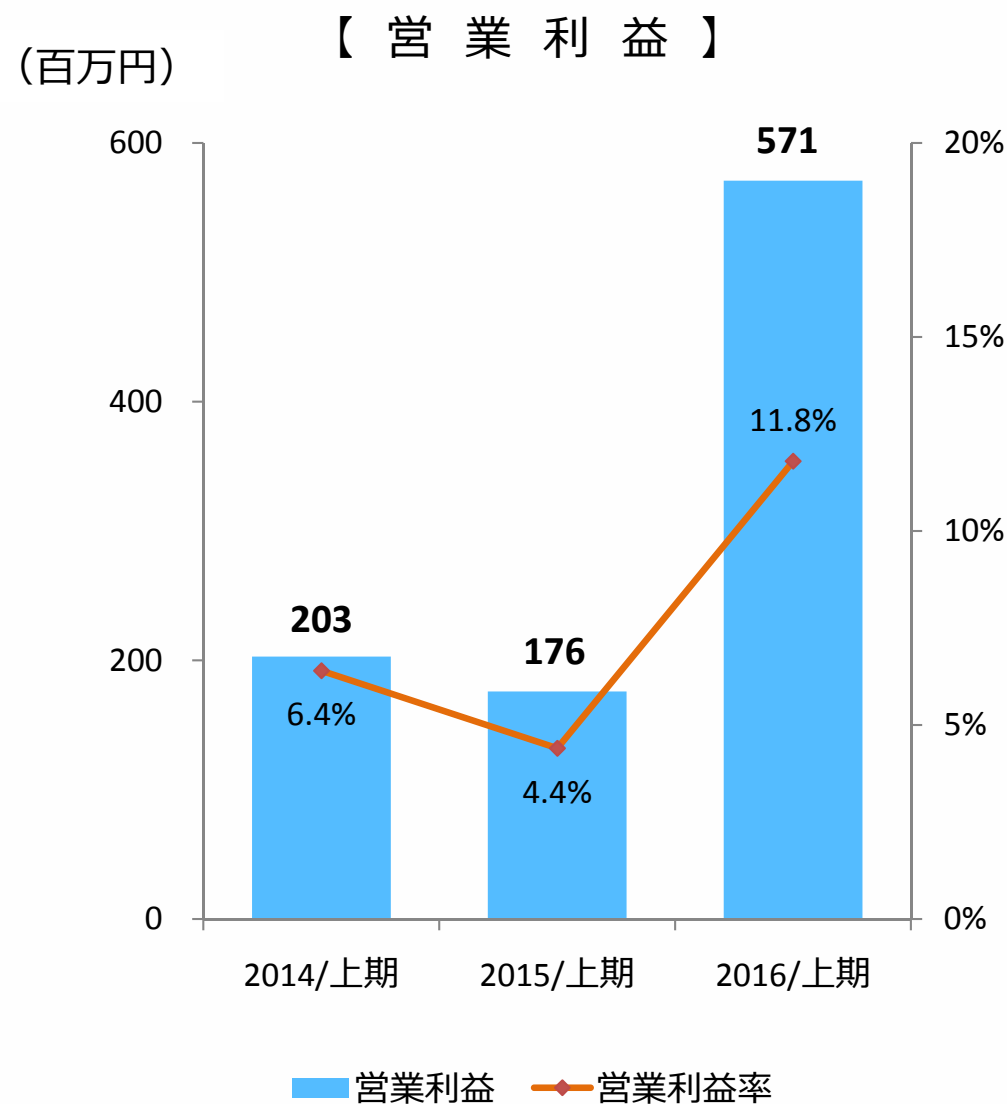
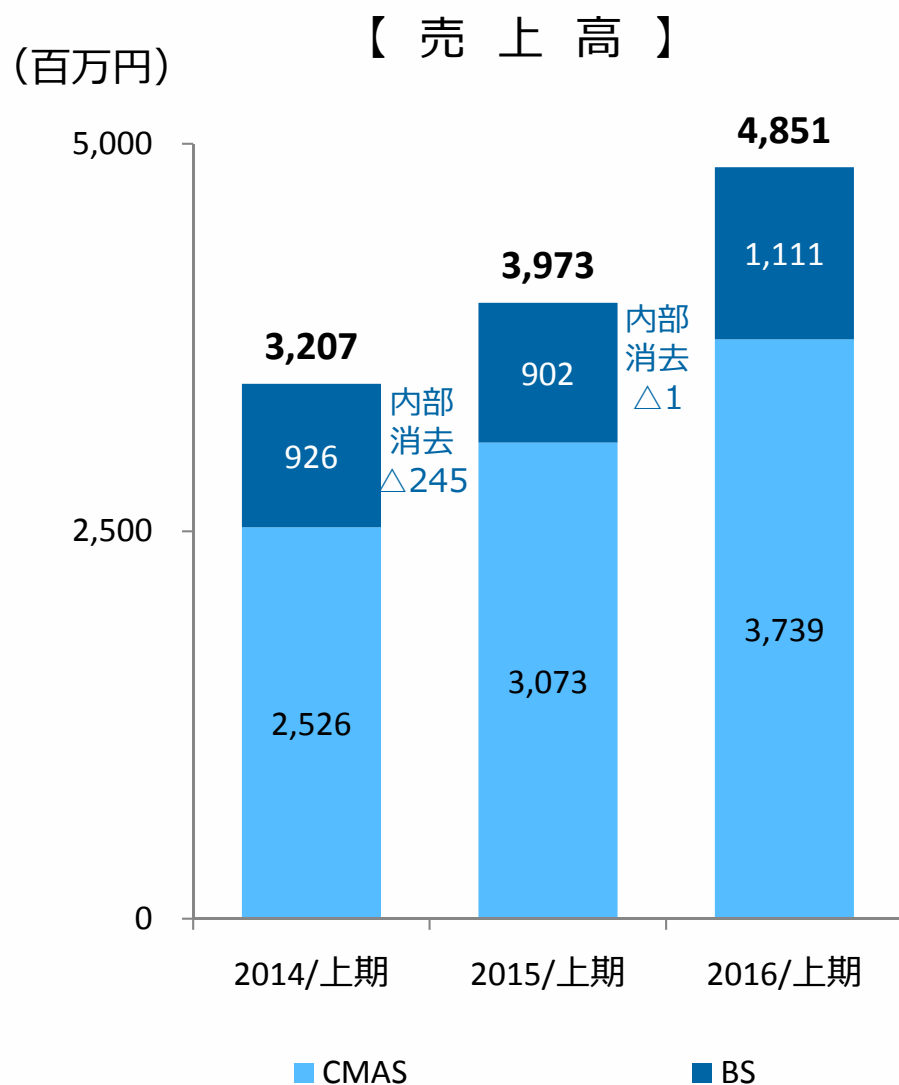
グローバル開発案件や治験国内管理人業務等を拡大。モニタリング業務及び市販後調査業務等における新規受注及び既存案件が堅調に進捗、JCLバイオアッセイの売上が加わったことにより売上高は前年同期を大幅に上回る。営業利益は、非臨床業務受注遅れやのれん償却費増加等の影響の結果、前年同期から微減したが、臨床業務等が好調に推移し、計画を上回って推移。

医薬品製造支援（CMO）事業



構造改革の取組みにより、価格競争力を強化し営業活動を推進、案件の引合いが増加傾向。売上高は新規案件の受託生産が堅調に進み前年同期を上回る。コスト構造改革取組みの効果により大幅に採算が改善し、営業黒字を計上。

医薬品営業支援（CSO）事業

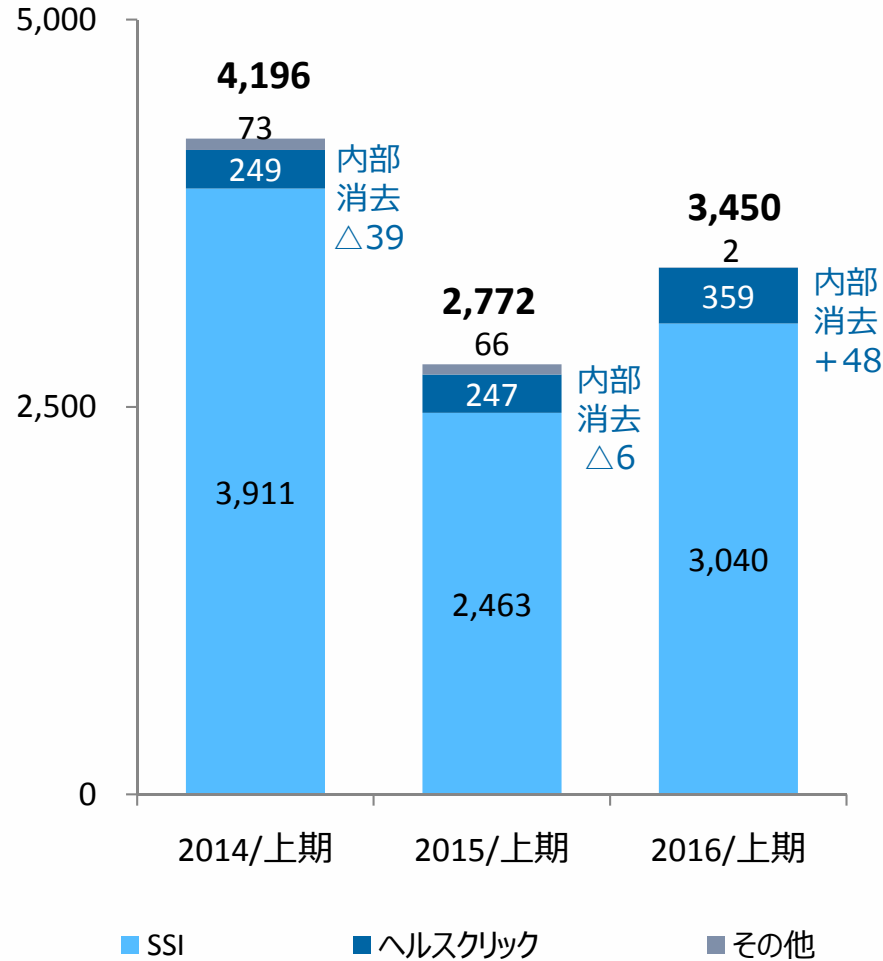


シミック・アッシュフィールドにおいて、受注力強化およびサービスモデル拡充に取り組む。MR派遣業務及びBPOサービスの既存案件が好調に進捗したことにより、売上高及び営業利益が前年同期を大幅に上回る。

ヘルスケア事業

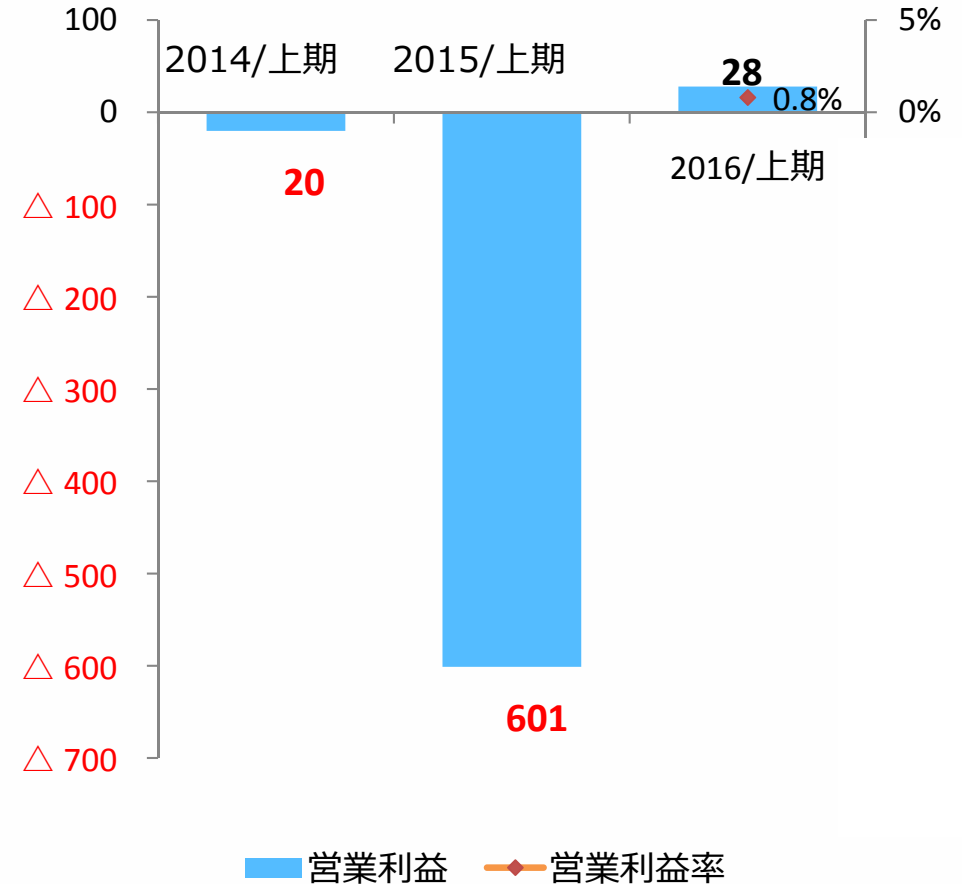
【 売上高 】

(百万円)



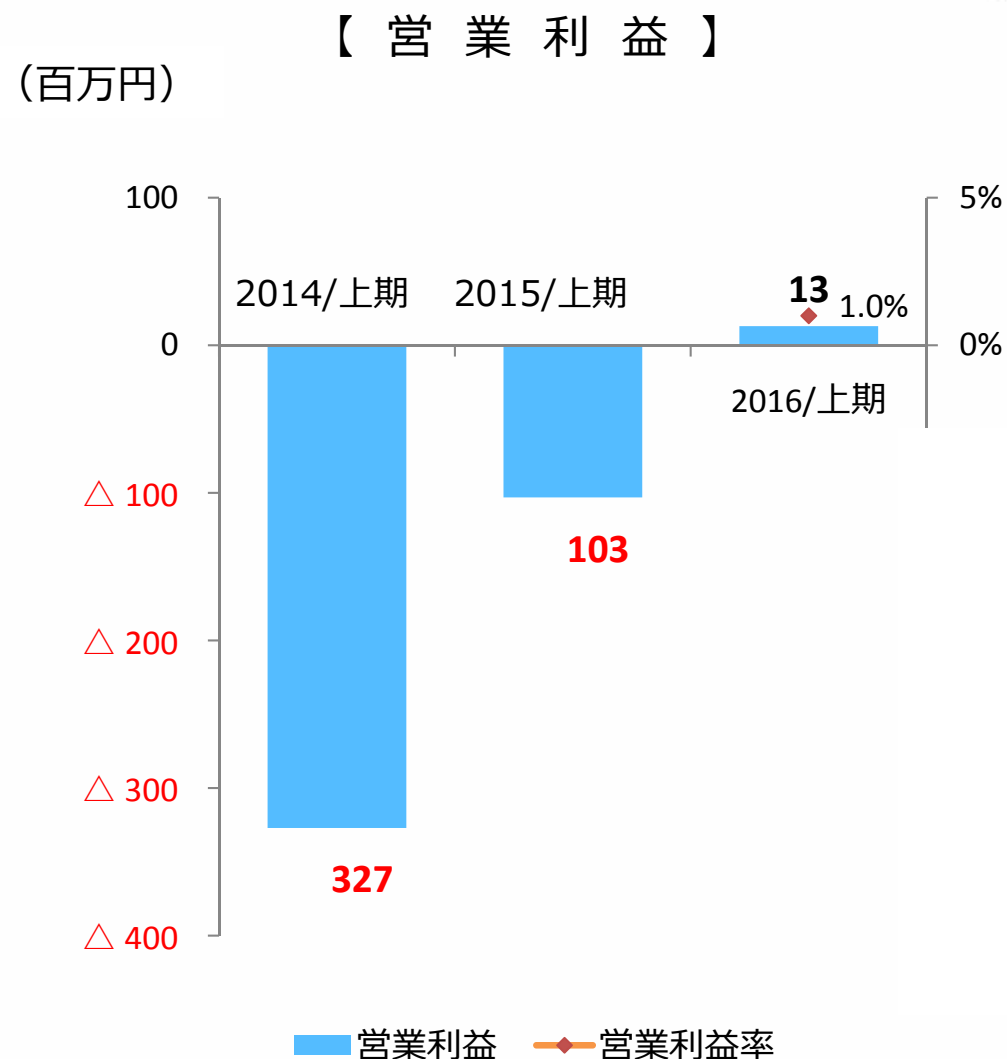
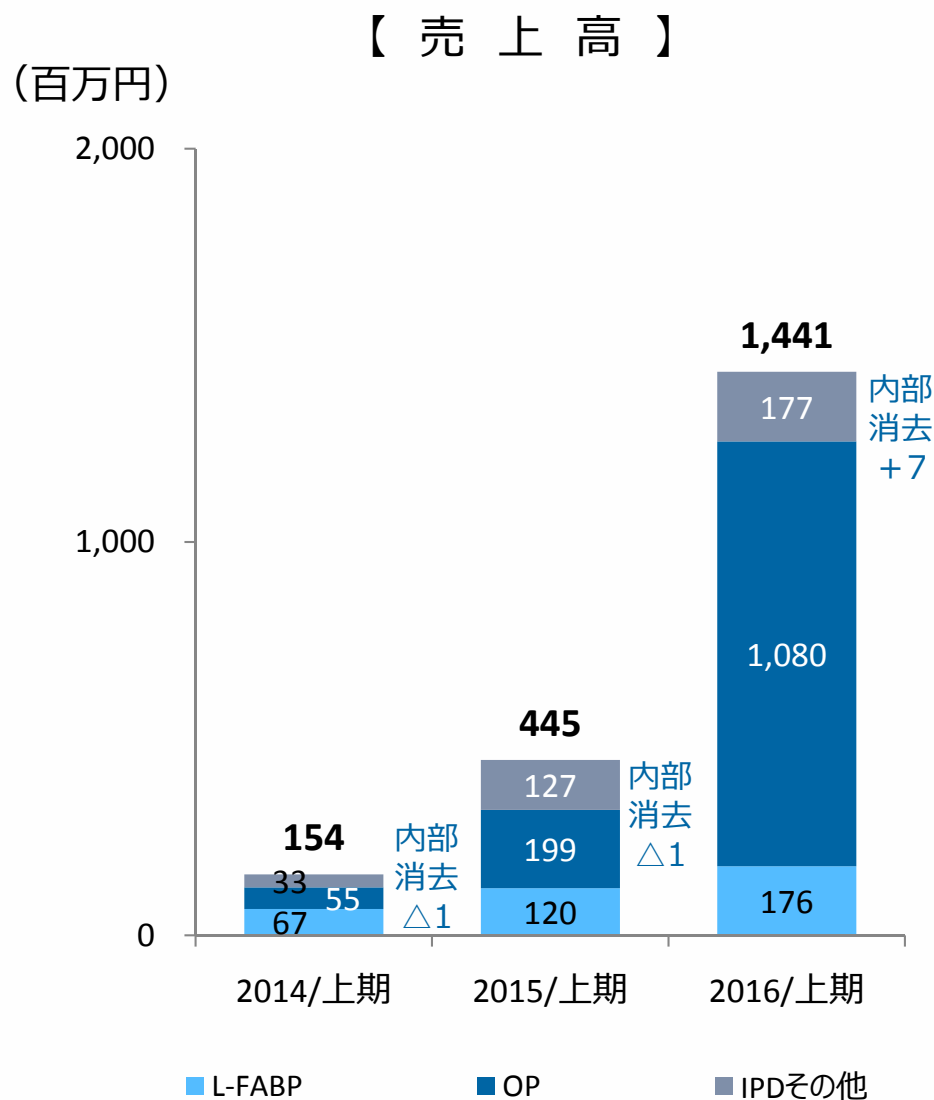
【 営業利益 】

(百万円)



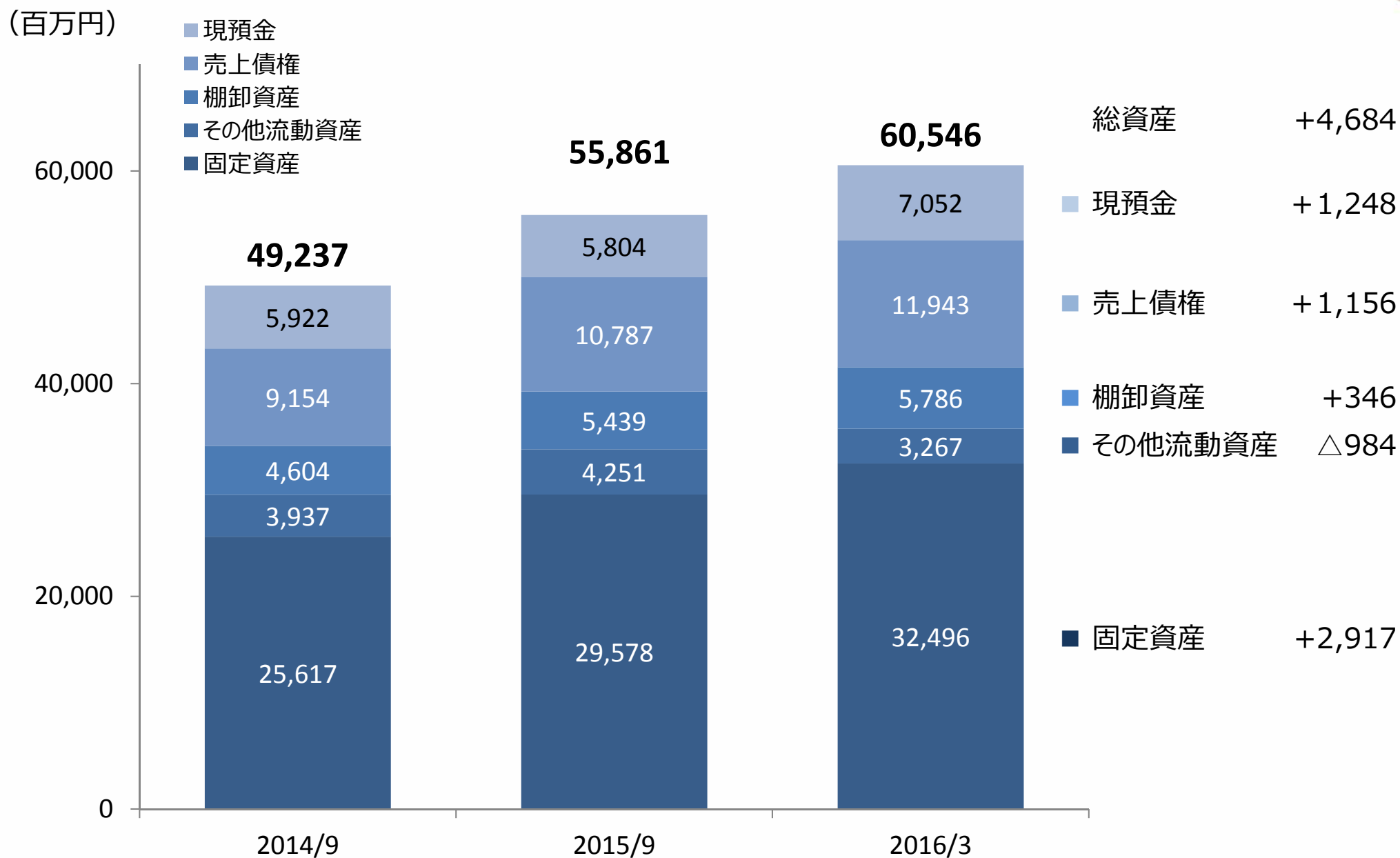
業績の早期回復を図るため、コスト削減やプロジェクト管理の徹底などの施策を継続して推進。営業活動の強化、医療機関ネットワーク拡大の推進など新規受注獲得に邁進、受注は回復傾向。売上高は既存案件が堅調に進捗し前年同期を大幅に上回る。経営効率化施策の効果等により大幅に採算が改善し、営業黒字を計上。

知的財産開発（IPD）事業

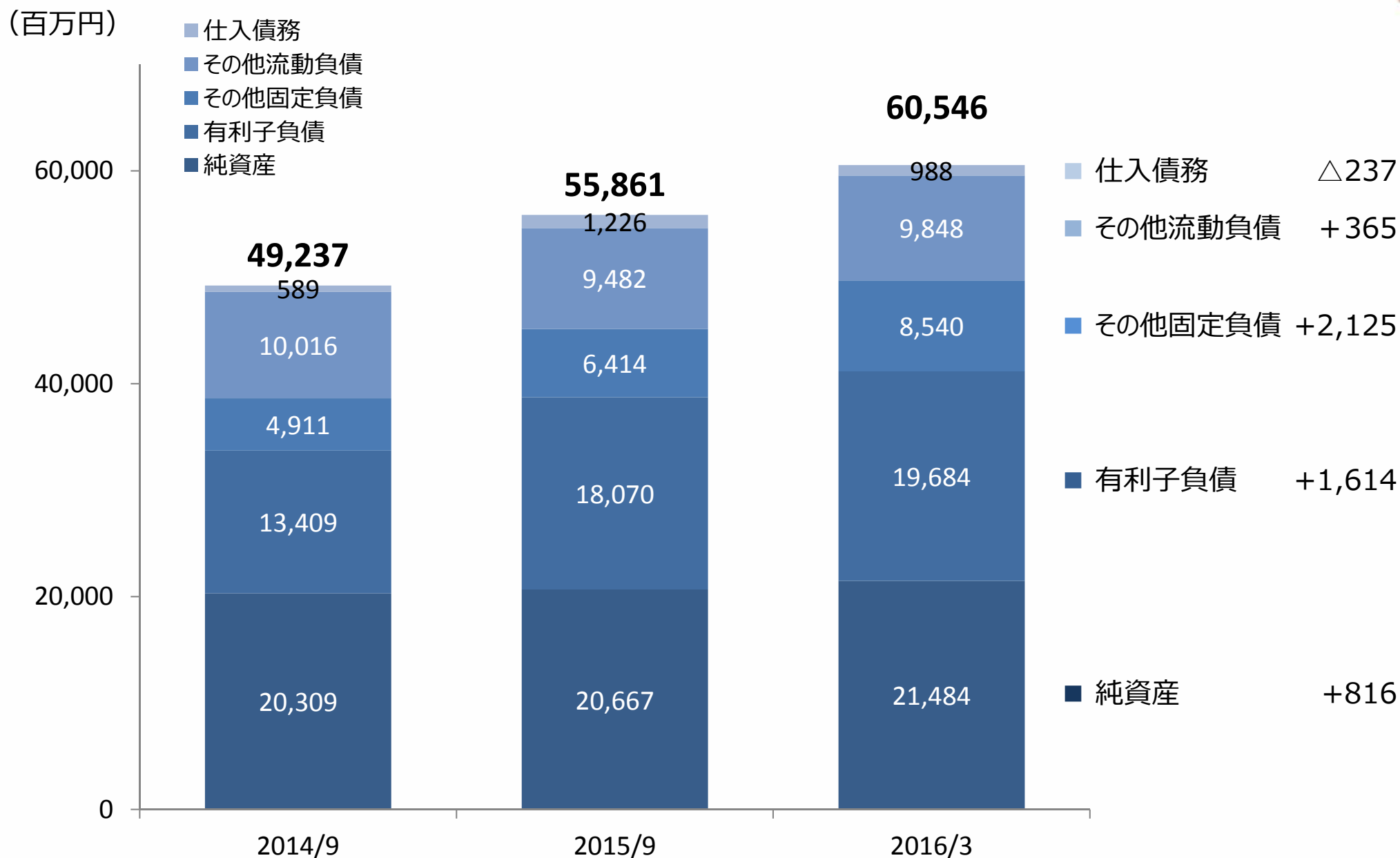


診断薬開発において簡易検査（Dip-test）キットの開発に取り組む。製薬企業から製造販売承認の承継を受けたオーファンドラッグ等の販売及び製薬企業との共同販促を行うなど、売上規模の拡大を図る。診断薬及びオーファンドラッグ等の売上が大幅に増加したこと等により売上高が前年同期を大幅に上回り、営業黒字を計上。

貸借対照表（資産の部）



貸借対照表（負債の部・純資産の部）



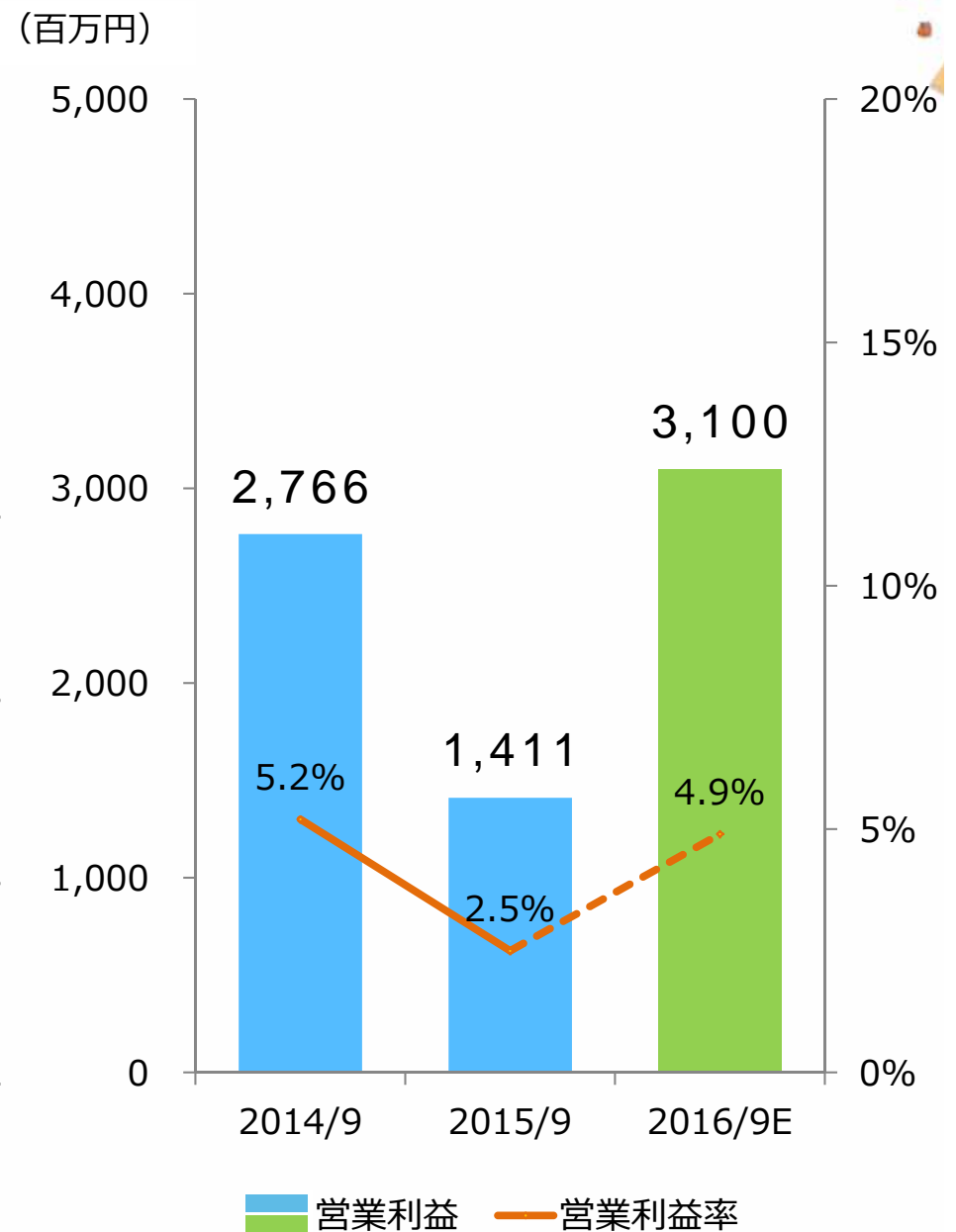
キャッシュ・フロー

(百万円)

	2015/上期	2016/上期	増減	
営業活動によるCF	△1,092	1,988	3,081	【主な内訳】 (営業活動によるCF) ・税金等調整前四半期純利益および減価償却による収入 ・売上債権の増加の支払による支出
投資活動によるCF	△1,968	△2,072	△103	(投資活動によるCF) ・有形・無形固定資産の取得による支出
財務活動によるCF	2,053	1,397	△656	(財務活動によるCF) ・金融機関からの長期借入れによる収入 ・長期借入金返済による支出 ・配当金の支払
現金及び現金同等物の 換算差額	37	△41	△78	
現金及び現金同等物の 増減額	△970	1,273	2,243	
現金及び現金同等物の 期首残高	5,751	5,638	△113	
株式交換による現金及 び現金同等物の増加額	533	—	△533	
現金及び現金同等物の 四半期末残高	5,315	6,911	1,596	

2016年9月期 通期見通し

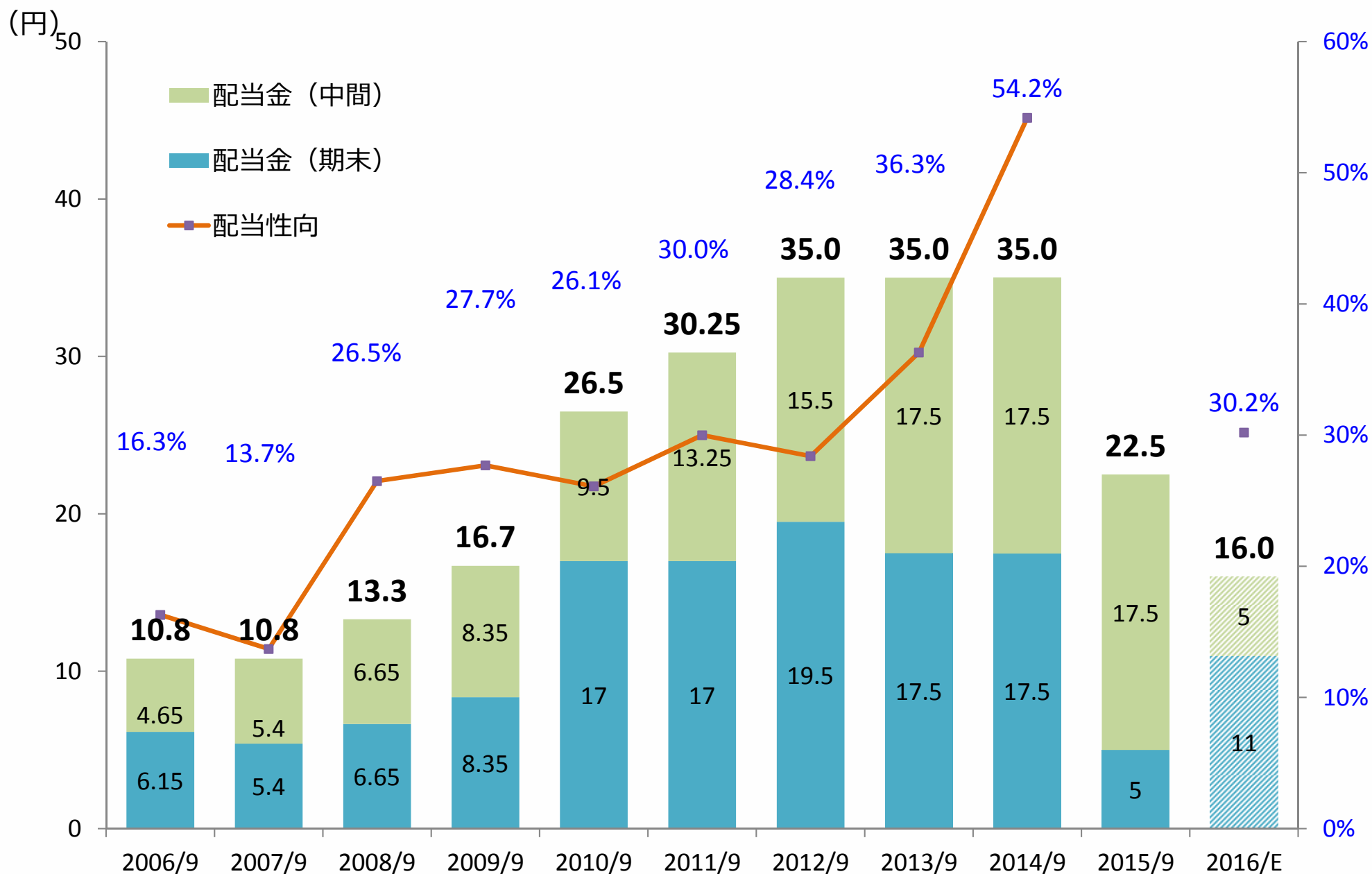
	2015/通期 実績 (百万円)	2016/通期 当初見通し (百万円)	修正見通し (百万円)	対前年 増減率 (%)
売上高	55,904	63,200	62,700	12.2
営業利益	1,411	2,300	3,100	119.6
経常利益	970	1,960	2,700	178.1
親会社株 主に帰属す る当期 純利益	△542	400	1,000	—



2016年9月期 通期見通し（セグメント別）

		2015/通期 実績 (百万円)	2016/通期 当初見通し (百万円)	修正見通し (百万円)	対前年 増減率 (%)
C R O 事業	売上高	27,471	30,000	29,800	8.5
	営業利益	5,092	4,900	4,600	△9.7
C M O 事業	売上高	13,810	14,900	14,600	5.7
	営業利益	△325	350	350	—
C S O 事業	売上高	8,875	10,300	9,800	10.4
	営業利益	716	750	850	18.6
ヘルスケア事業	売上高	5,640	6,300	6,700	18.8
	営業利益	△1,188	△200	100	—
I P D 事業	売上高	762	2,500	2,600	241.1
	営業利益	△356	△400	△200	—
調 整 額	売上高	△656	△800	△800	—
	営業利益	△2,526	△3,100	△2,600	—
合 計	売上高	55,904	63,200	62,700	12.2
	営業利益	1,411	2,300	3,100	119.6

1株当たり配当金と配当性向の推移





シミツクグループの 事業戦略

代表取締役CEO 中村 和男

製薬業界における 産業構造の革命的变化



- ▶ ローコストですべての患者さんに医薬品を届ける
- ▶ 精密医療（precision medicine）への対応

CMICの概要



CMIC独自の事業モデル（PVC）

CSO事業

(Contract Sales Organization)

医薬品マーケティング・営業を
支援する事業

ヘルスケア事業

(Healthcare)

医療機関、患者、一般消費者を
対象とした事業

Pharmaceutical Value Creator

個々の事業で得たノウハウや知識を活用し
製薬企業のストラテジックパートナーへ

CMO事業

(Contract Manufacturing Organization)

医薬品製造を支援する事業

IPD事業

(Intellectual Property Development)

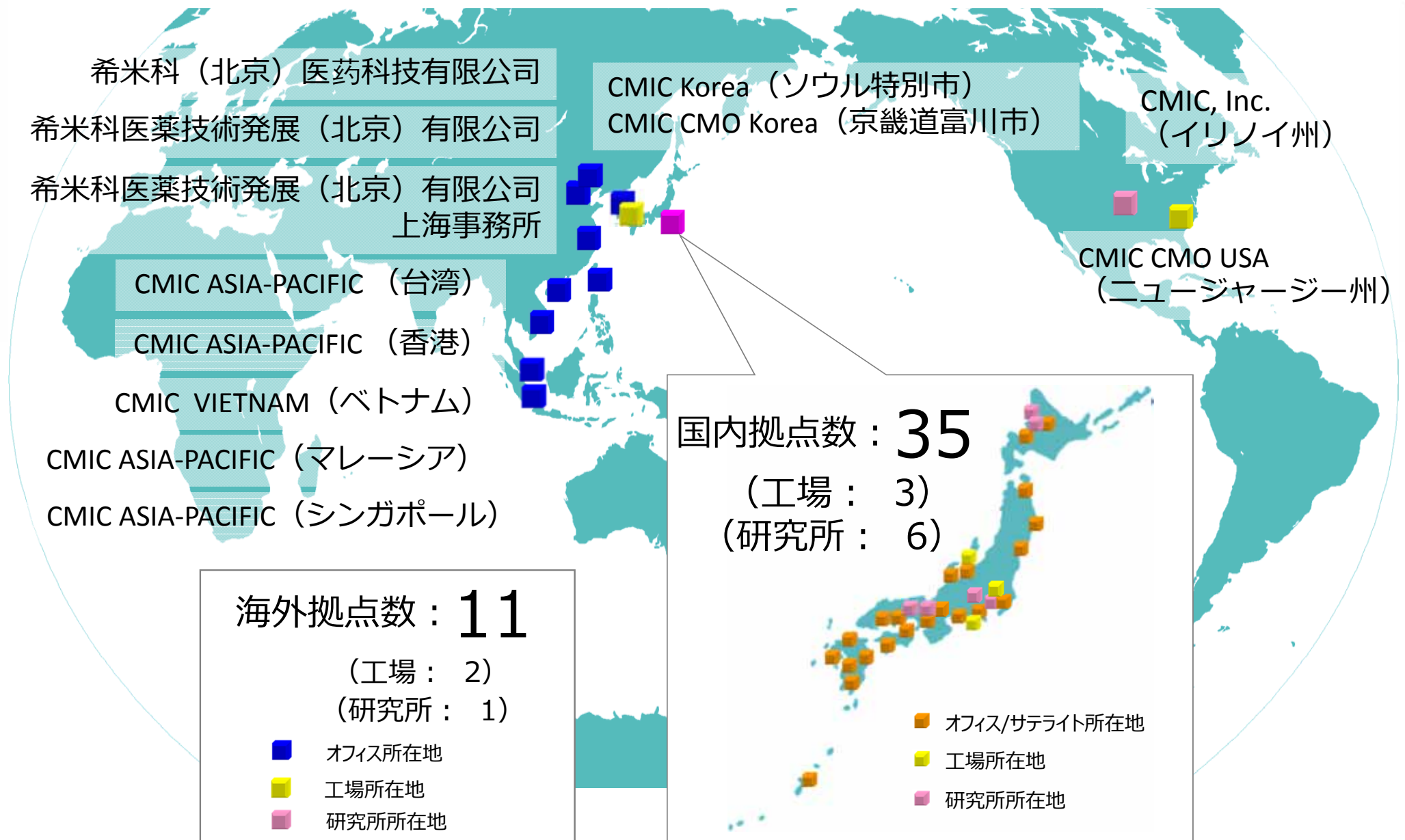
自社で知的財産を開発する事業

CRO事業

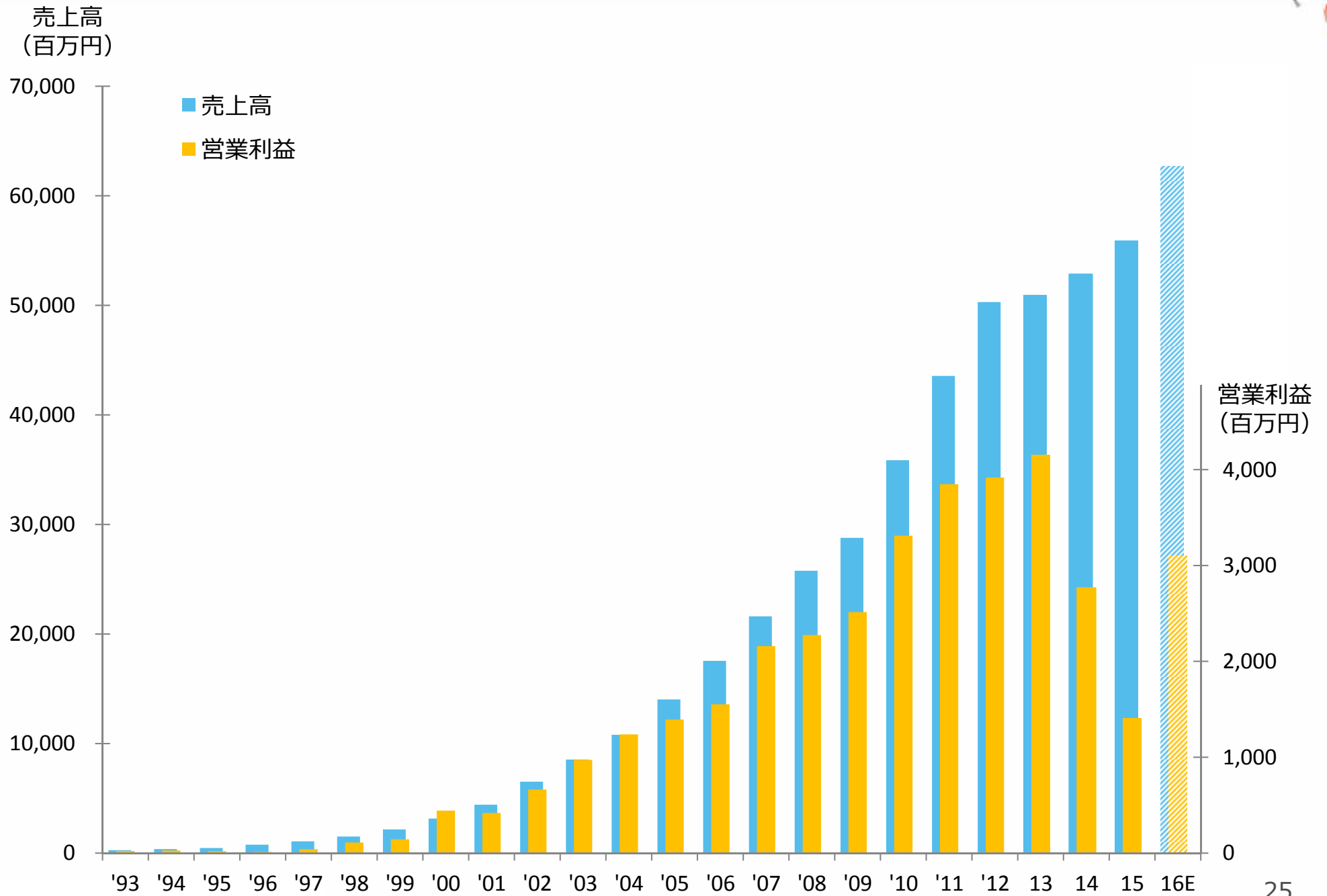
(Contract Research Organization)

医薬品開発を支援する事業

シミックグループのエリア展開



売上高と営業利益の推移



2014年10月より

Project Phoenixをスタート

収益の伴った成長を実現するために

Phoenix 1.0 (2014年10月–2016年3月)

- ▶ 赤字事業の解消、コスト構造の改革
- ▶ 企業文化の確立 (CMIC'S CREED)

Phoenix 2.0 (2016年4月–2018年3月)

- ▶ 効率経営を目指した組織再編、人材教育
- ▶ PVC機能を活用したソリューション提供

Phoenix 3.0 (2018年4月–2020年3月)

- ▶ 更なる成長に向けたビジネスモデルの進化

Project Phoenixの 進捗と今後の展望



Project Phoenix 1.0の進捗

2014年10月より「Project Phoenix 1.0」を開始

【赤字事業の解消】

- ▶ CMO事業
- ▶ SMO事業
- ▶ Orphan Drug事業

CMO、SMOともに黒字化を達成見込みにつき、
2016年3月にて終了

【その他の取り組み】

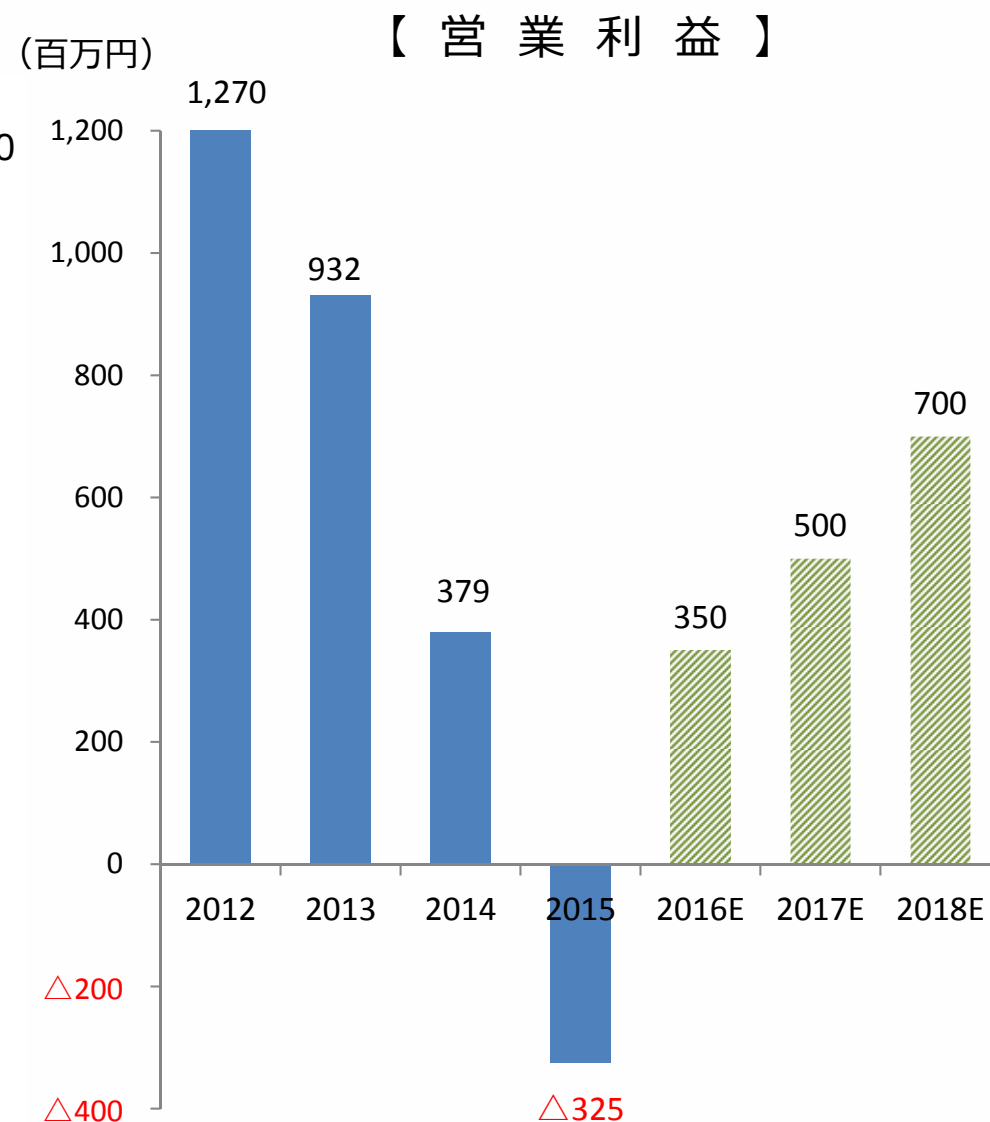
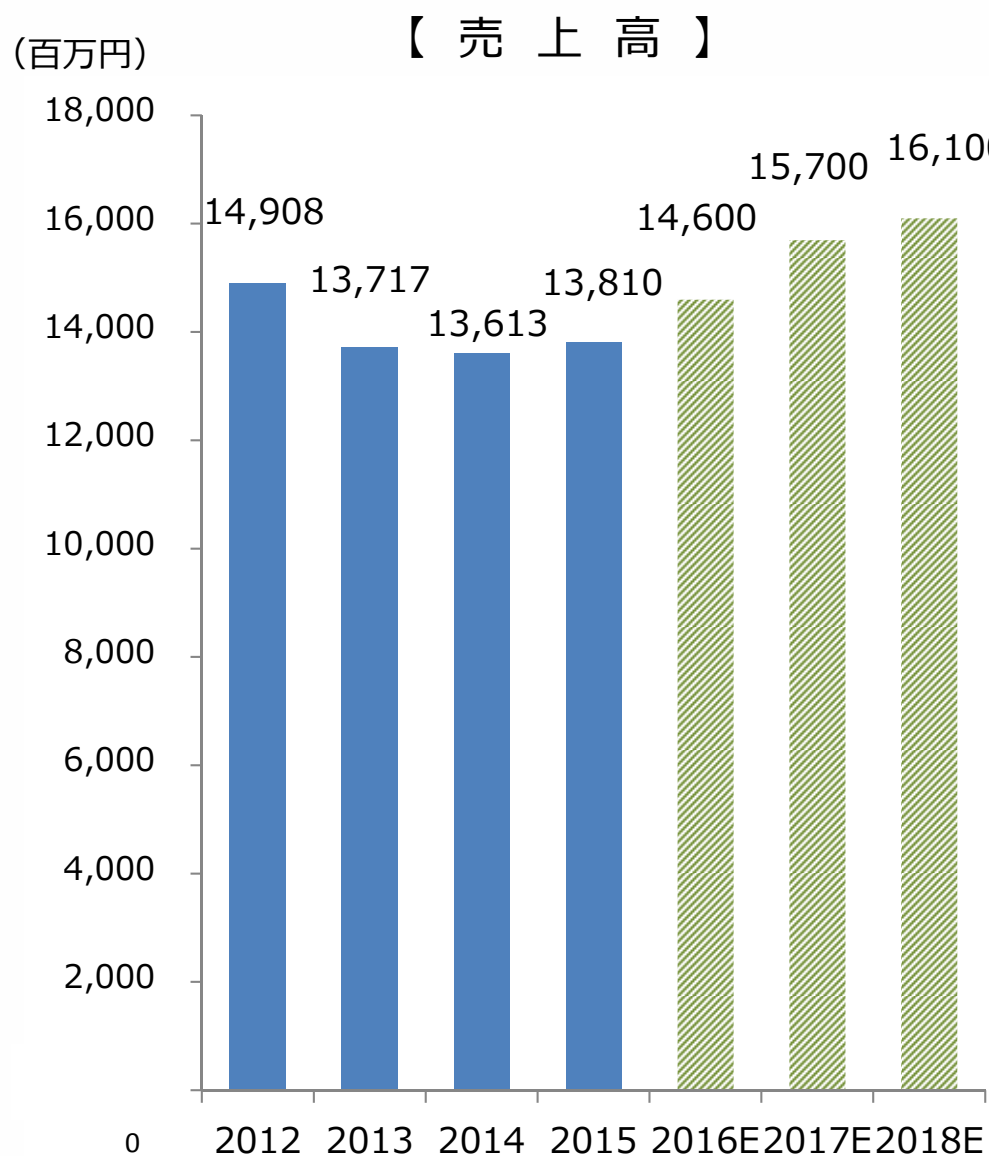
- ▶ 企業文化の確立（CMIC'S CREED）
- ▶ 働き方の改革（本社移転：フリーデスク、モバイル環境の整備）
- ▶ 人材育成の強化（研修センター設置）



Project Phoenix CMO

医薬品製造支援事業

売上・営業利益の見通し【CMO事業】



2020年9月期目標：売上高200億円、営業利益15-20億円

重点的な取り組み

サービス業に適した構造改革
工場生産性向上

BD（受託営業）活動
の強化

戦略的な設備投資

グローバル展開

技術力の向上

日本No.1 CDMOを目指して

- ✓ 2016年9月期 黒字化見込み
- ✓ 2020年9月期目標 売上高200億円、営業利益15-20億円

新注射剤棟の概要

【背景】

- ▶ 高度な製造技術とグローバル基準（PIC/S^{*1}、3極GMP^{*2}対応）
- ▶ 高薬理活性、生物由来製剤への対応
- ▶ 抗がん剤領域の市場規模拡大

足利工場内に新設、2018年12月稼働予定



PIC/Sおよび3極GMPに対応

*1：医薬品分野における共通の製造・品質管理基準の策定や相互査察の促進を図る国際的な枠組み

*2：日米欧が定める医薬品の製造・品質管理に関する基準

戦略的な設備投資

静岡

固形剤

2013年

2014年

2015年

2016年

2017年

2018年

2019年

2020年



高薬理活性
製造ライン

製造品目の
再配置
(技術移転)

富山

半固形剤

高アルコール
製剤製造棟

充填・包装
ライン増設

高薬理活性
対応製造棟



足利

注射剤

新注射剤棟





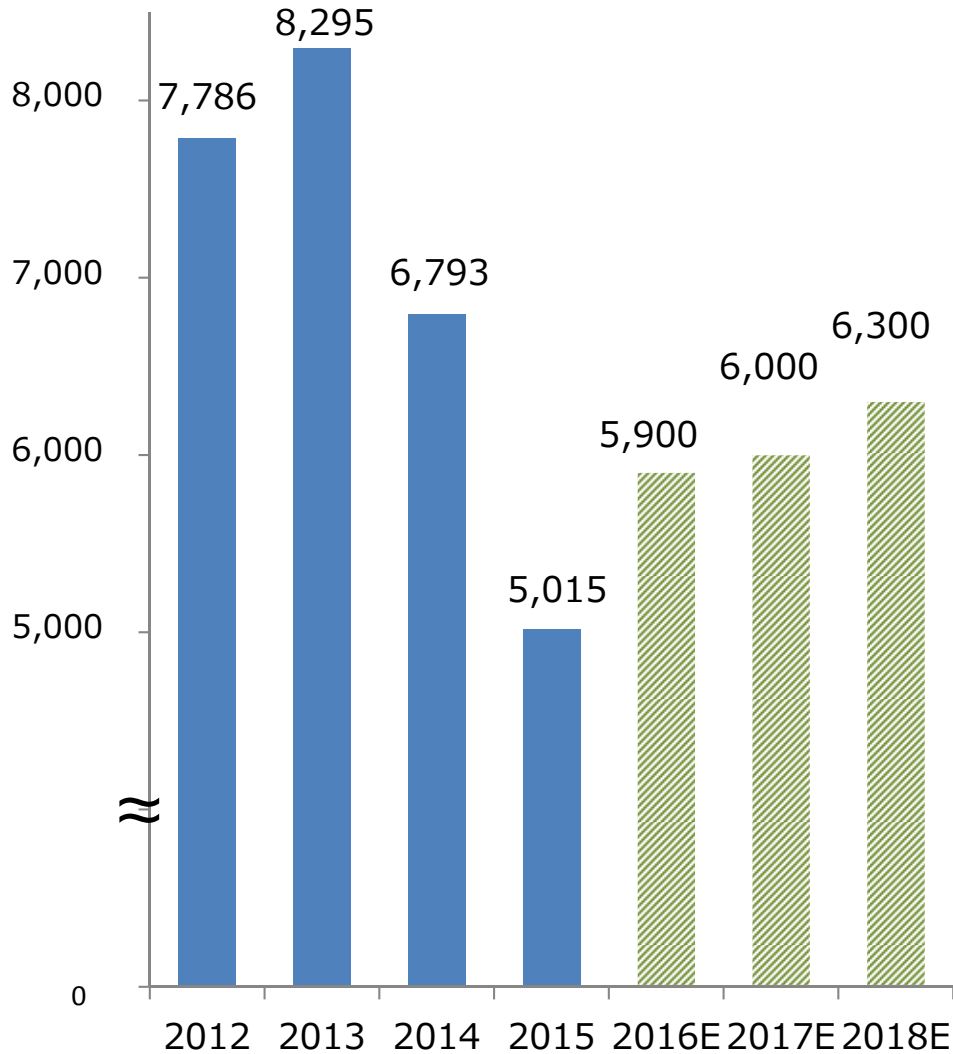
Project Phoenix SMO

治験施設支援事業

売上および営業利益の見通し【SSI】

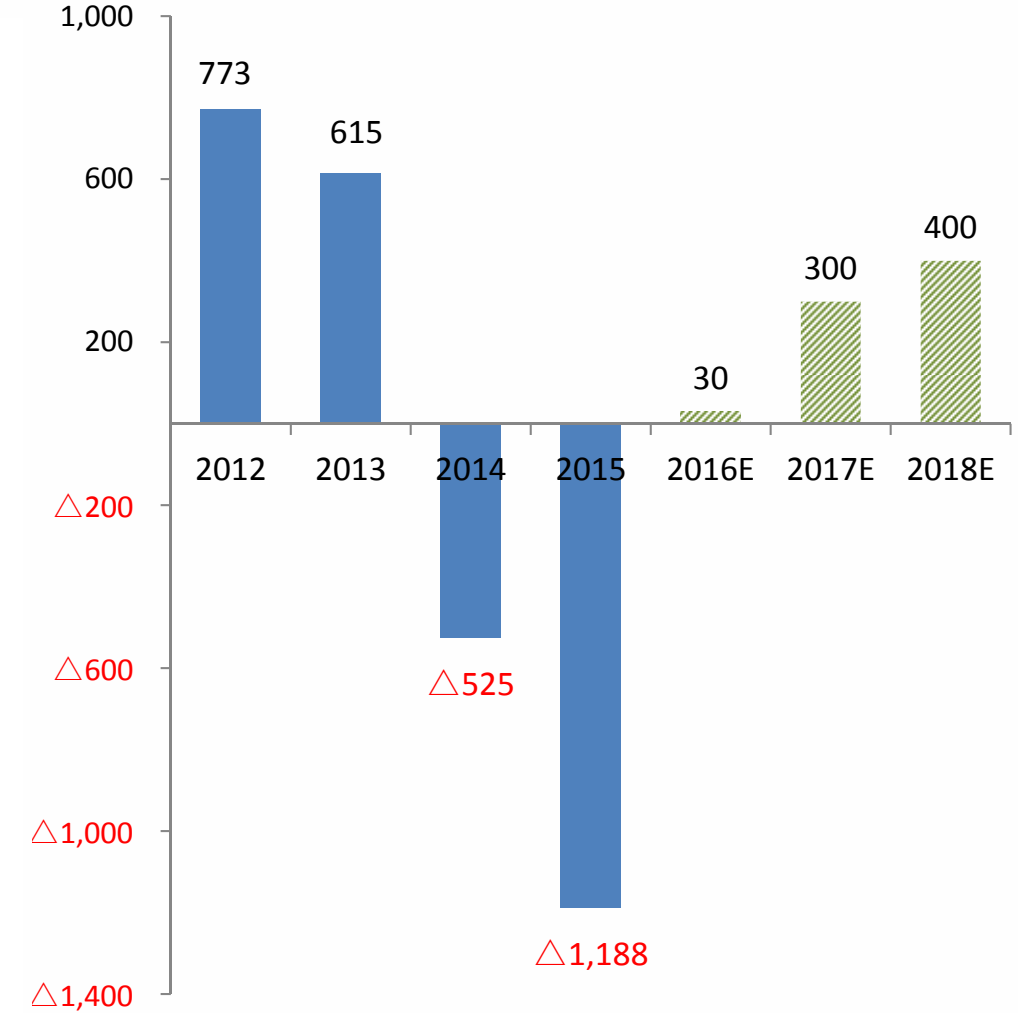
【売上高】

(百万円)



【営業利益】

(百万円)



SMO事業における取り組み

実行力・信頼性向上 に向けた育成 / 制度

- ▶ 推進リーダーによるコンプライアンス徹底
- ▶ 現場スタッフのサービス品質トレーニング
- ▶ 専門性（医薬・医療・GCP）強化
- ▶ 症例進捗管理体制の強化

生産性の向上

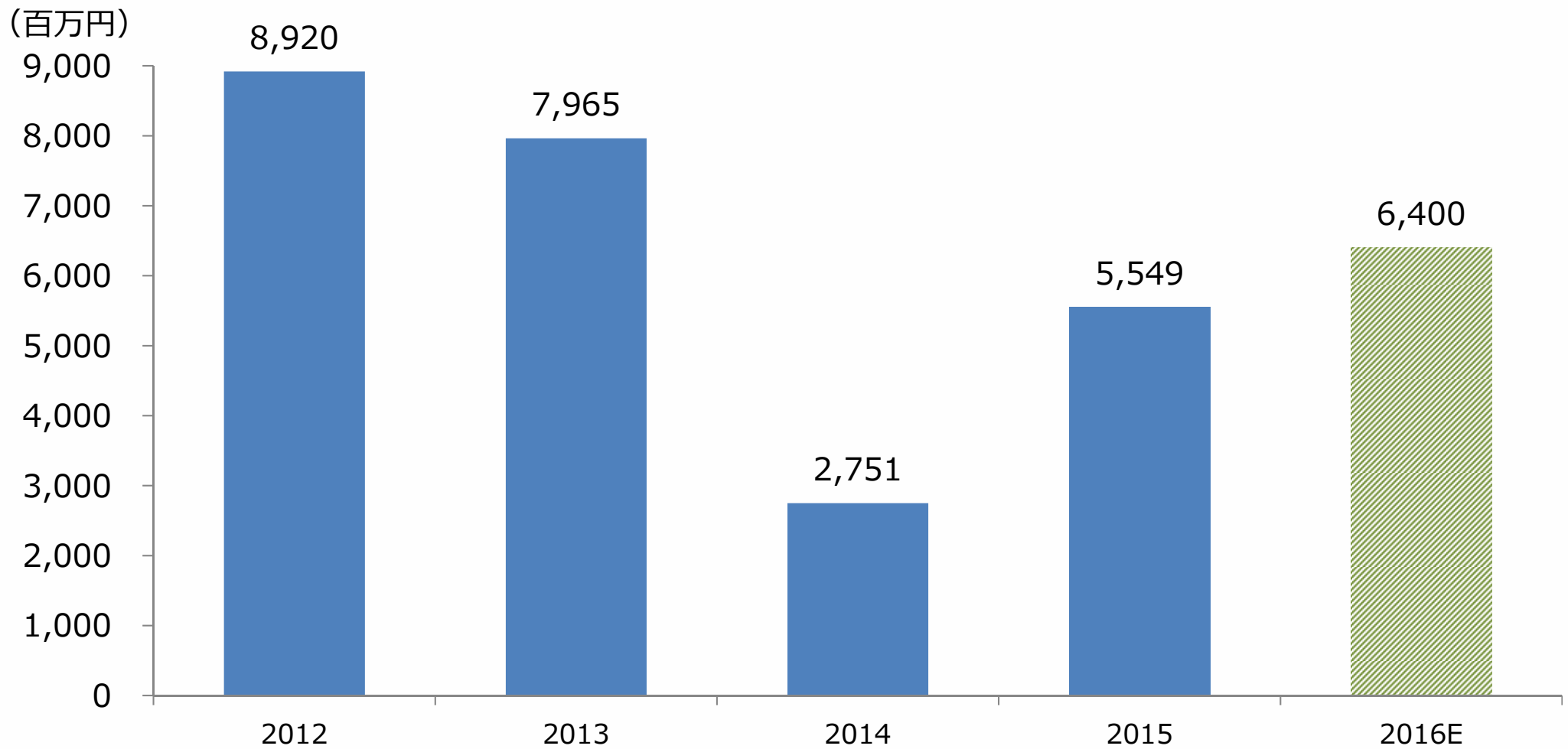
- ▶ 業務内容の精査、採算性確保
- ▶ コスト意識の浸透と徹底

営業力 / コミュニケーション の強化

- ▶ 施設当たり契約症例数向上
 - ・優良施設とのリレーション強化
 - ・新規施設開拓
 - ・施設選定責任者の設置
- ▶ クライアントとの関係強化
- ▶ 新規顧客開拓
- ▶ 提案力の向上

差別化・優位性 → 受注増

受注高の見通し【SSI】



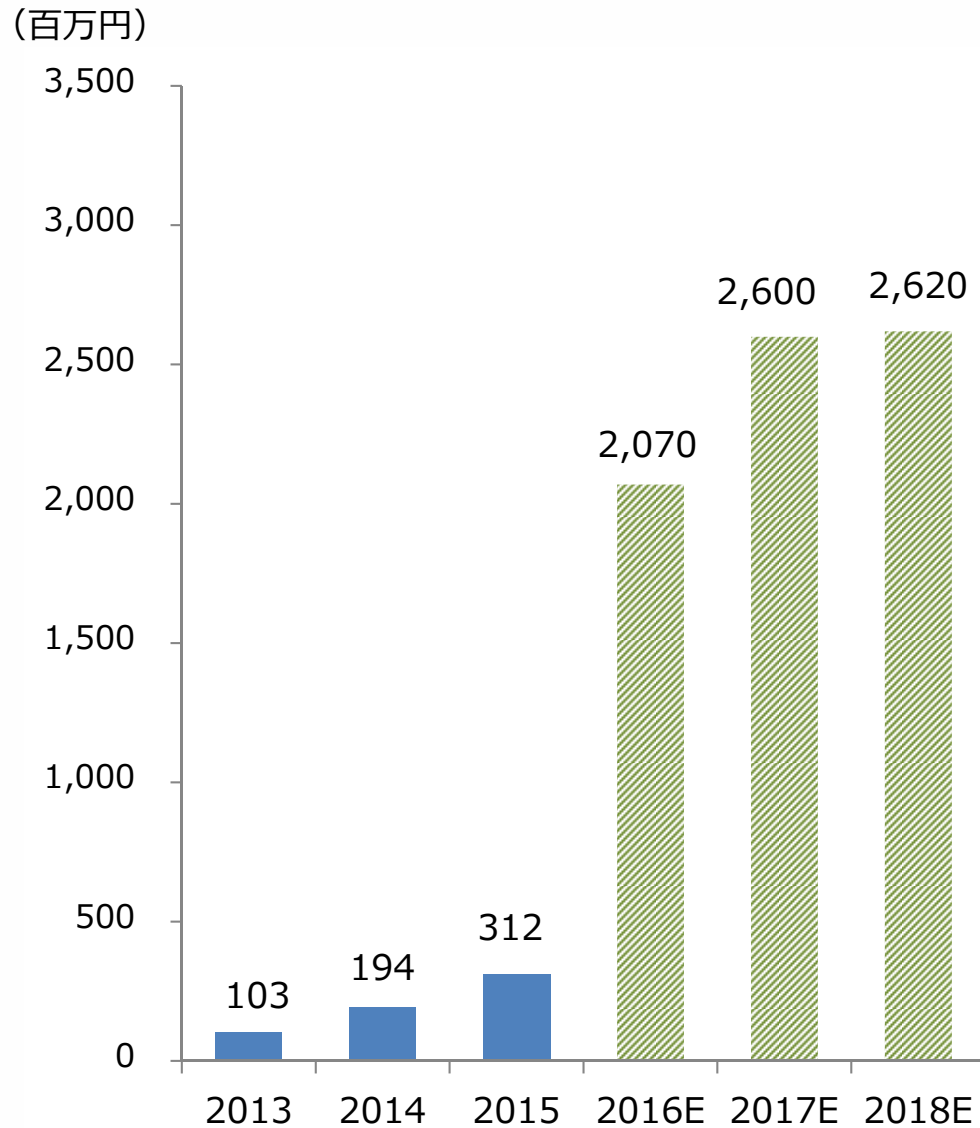


Project Phoenix Orphan Drug

希少疾病用医薬品

売上・営業利益の見通し【Orphan Pacific】

【売上高】



【営業利益】



Project Phoenixでの取り組み

売上規模拡大

- ▶ 企画力強化（効能拡大、新製剤等）
- ▶ 国内外の既存薬を積極的に承継
- ▶ コ・プロモーション、コ・マーケティング
- ▶ 国内外バイオベンチャーやアカデミアに対する開発・販売支援
 - MAH*として自社開発/販売

Low cost operation model

- ▶ シミック／メディカル両グループの人材・機能を活用
- ▶ サプライチェーンマネジメントの強化
- ▶ 在庫の適正化
- ▶ PMSの効率化
- ▶ 自社生産

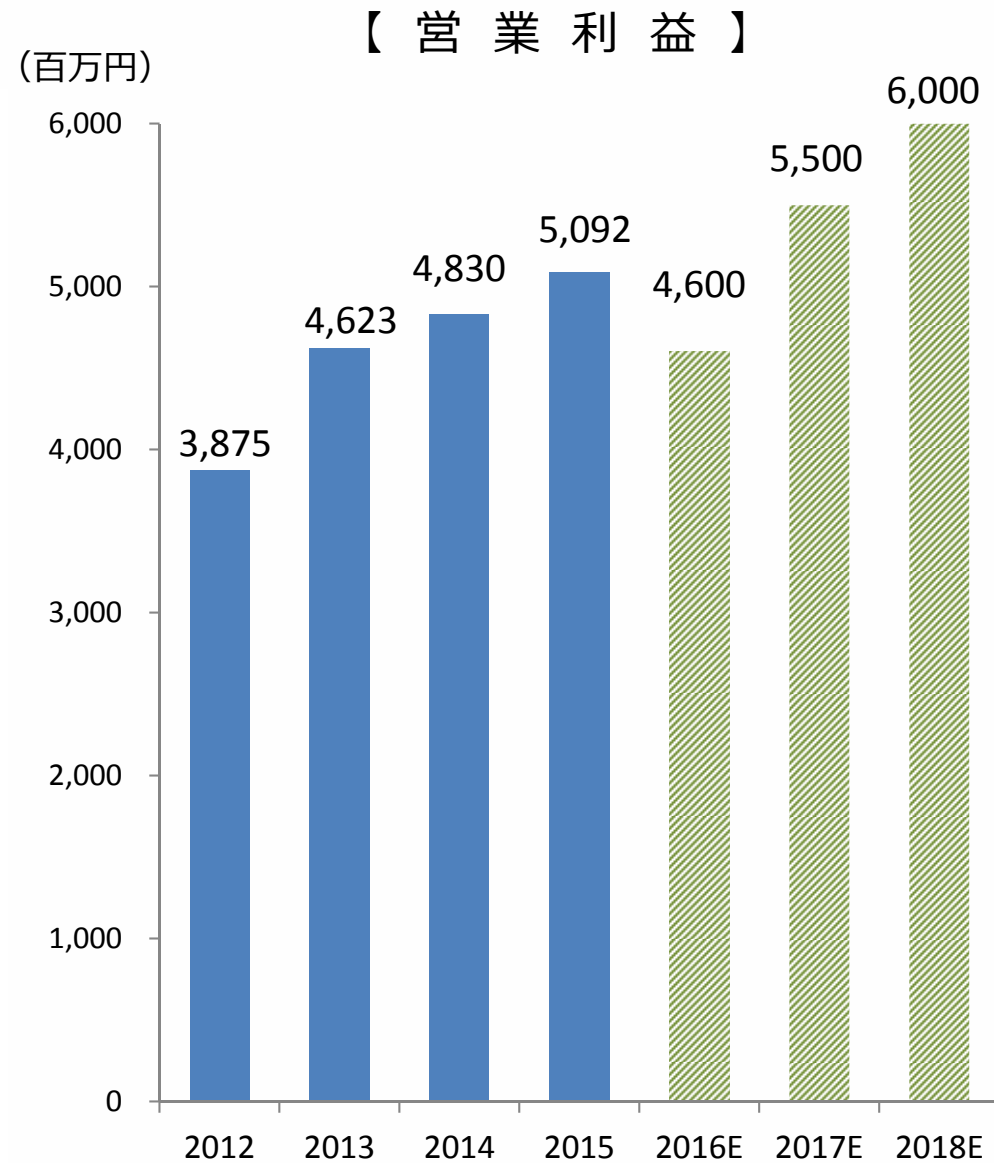
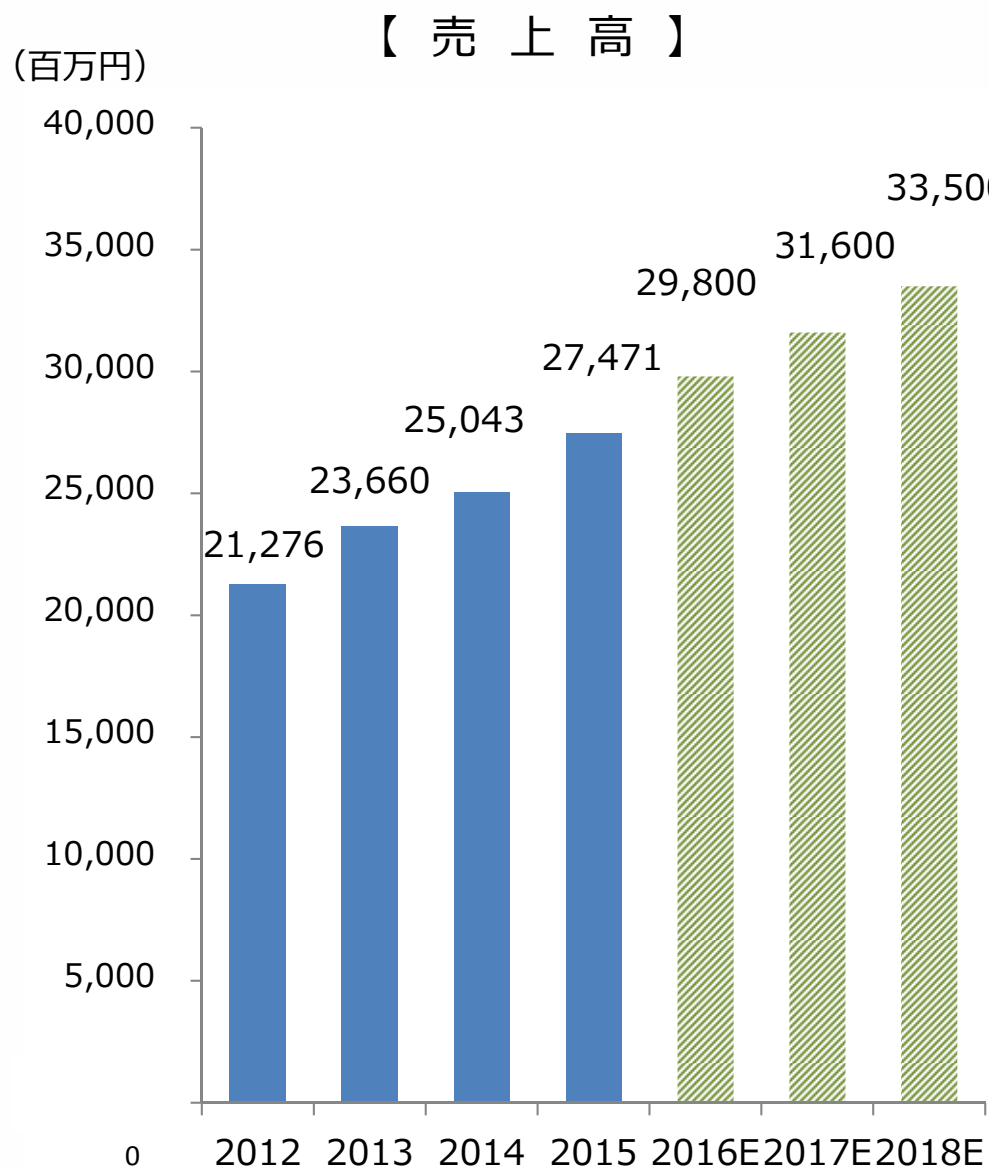
「患者視点を外さず、黒字化を目指す」



Project Phoenix CRO

医薬品開発支援事業

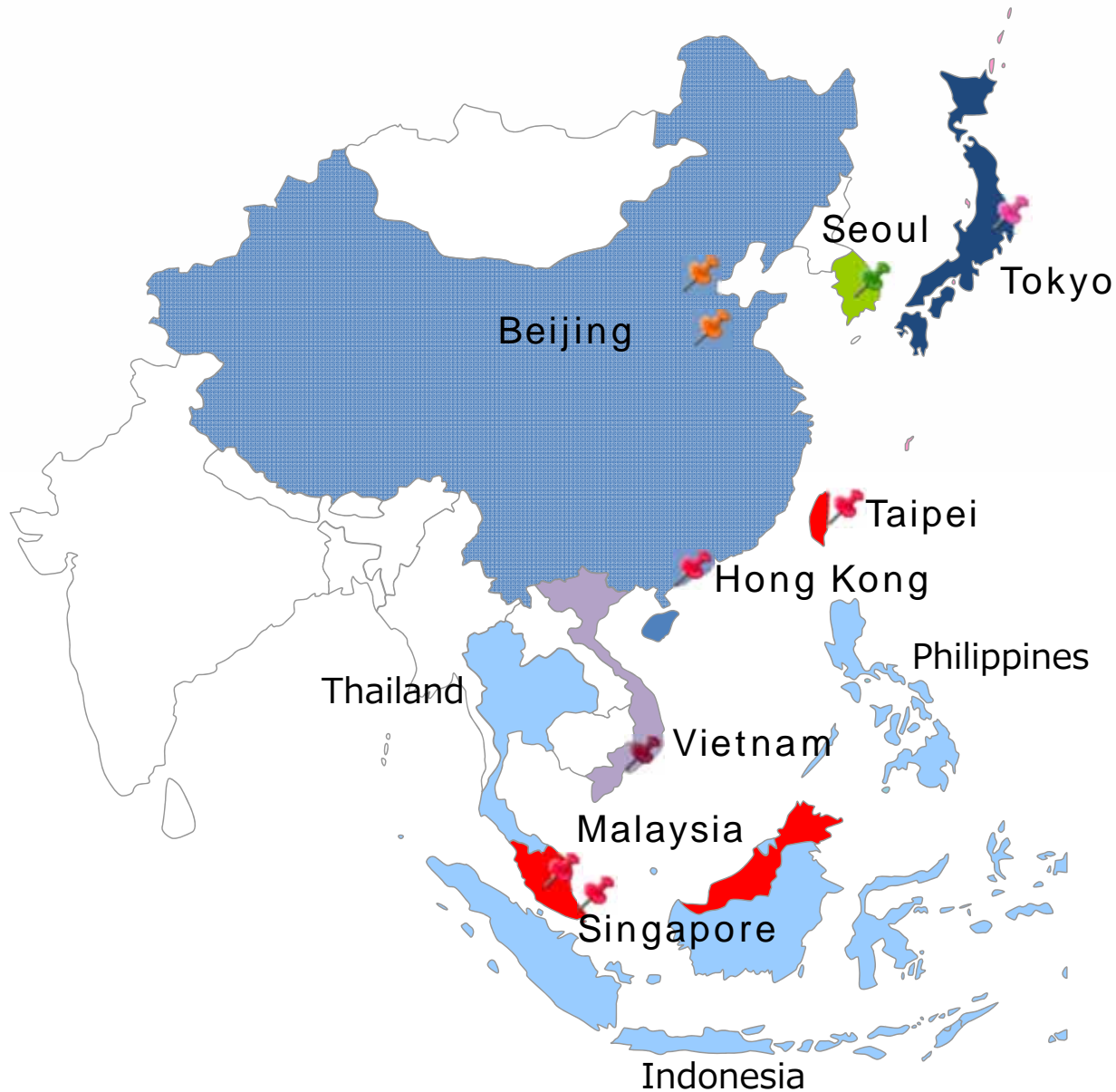
売上・営業利益の見通し【CRO事業】




Project Phoenix

「アジアNo.1を目指す」

アジア拠点



 CMIC HD / CMIC : 日本

 CMIC Korea : 韓国

 CMIC Beijing : 中国

 CMIC Asia-Pacific

- シンガポール(HQ)
- 台湾
- マレーシア
- 香港

Field-based Locations

- フィリピン
- タイ
- インドネシア

 CMIC Vietnam : ベトナム

Project Phoenix

測定業務：「世界TOP 3を目指す」

動物試験：

「特徴ある動物評価系の確立」

Non-clinical CRO業務の取り組み

【背景】

- ▶ CMC*機能を外注化拡大
- ▶ 分析業務の需要増加
- ▶ バイオアナリシス事業の市場規模はグローバルで10億ドル（当社推計）

【取り組み】

- ▶ 米国における分析ラボ強化
- ▶ 日系大手製薬企業の北米での測定業務を独占的に受託
- ▶ 技術力向上
- ▶ グローバルでの営業強化
- ▶ バイオマーカーの測定実施
- ▶ バイオアナリシス強化（米国バイオ医薬CDMO「KBI」に出資し、ノウハウ習得）

Non-clinical CRO業務の分析施設



▶ 米国
(CMIC, Inc.)



▶ 石狩
品質保証事業



▶ 西脇
バイオアナリシス事業

日米のラボでシームレスな連携

新動物実験棟

「森の研究所」をコンセプトに、環境、動物福祉、省エネ、フレキシビリティに配慮した「小淵沢」にふさわしい動物施設

小淵沢の「バイオリサーチセンター」に新設



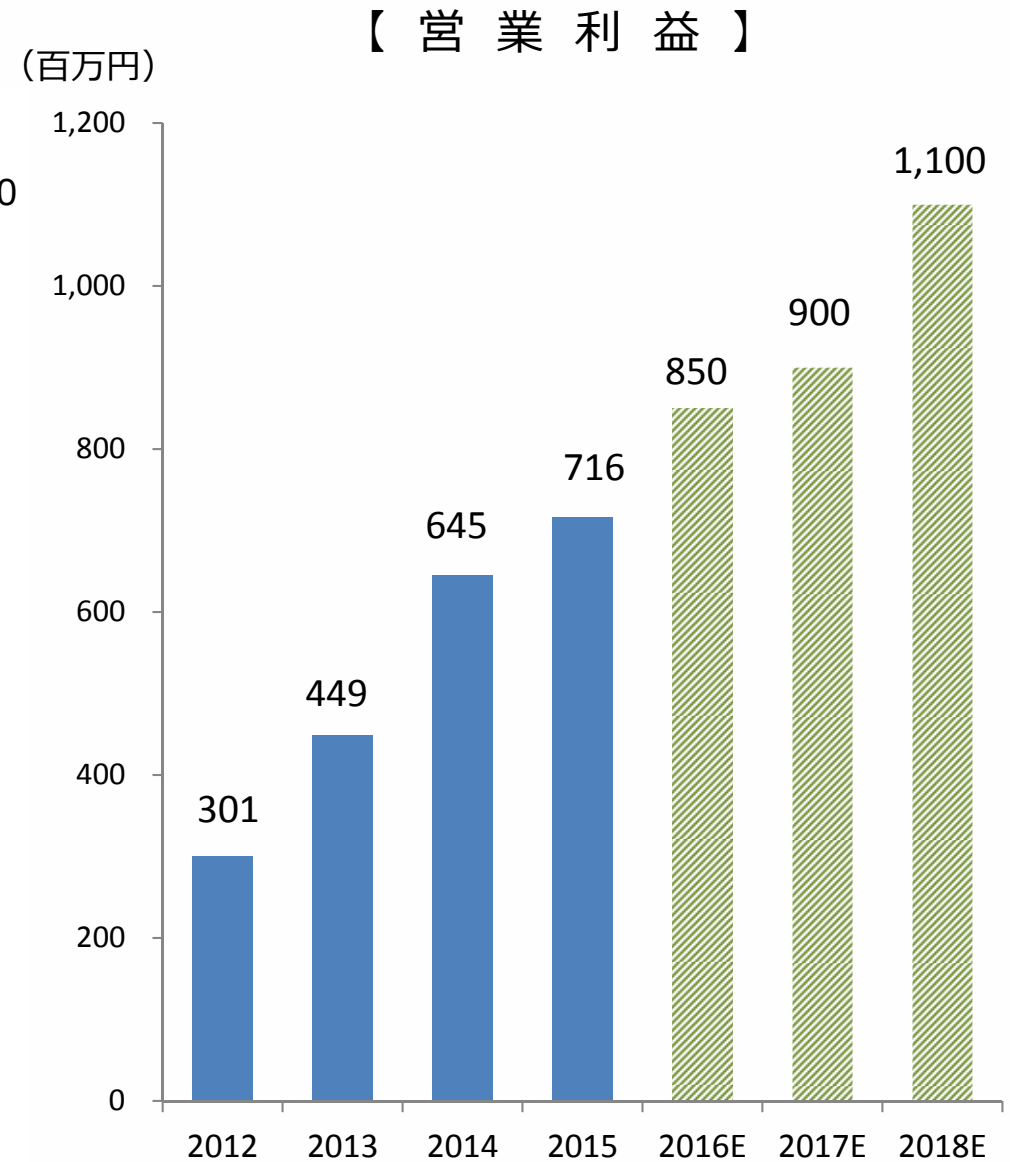
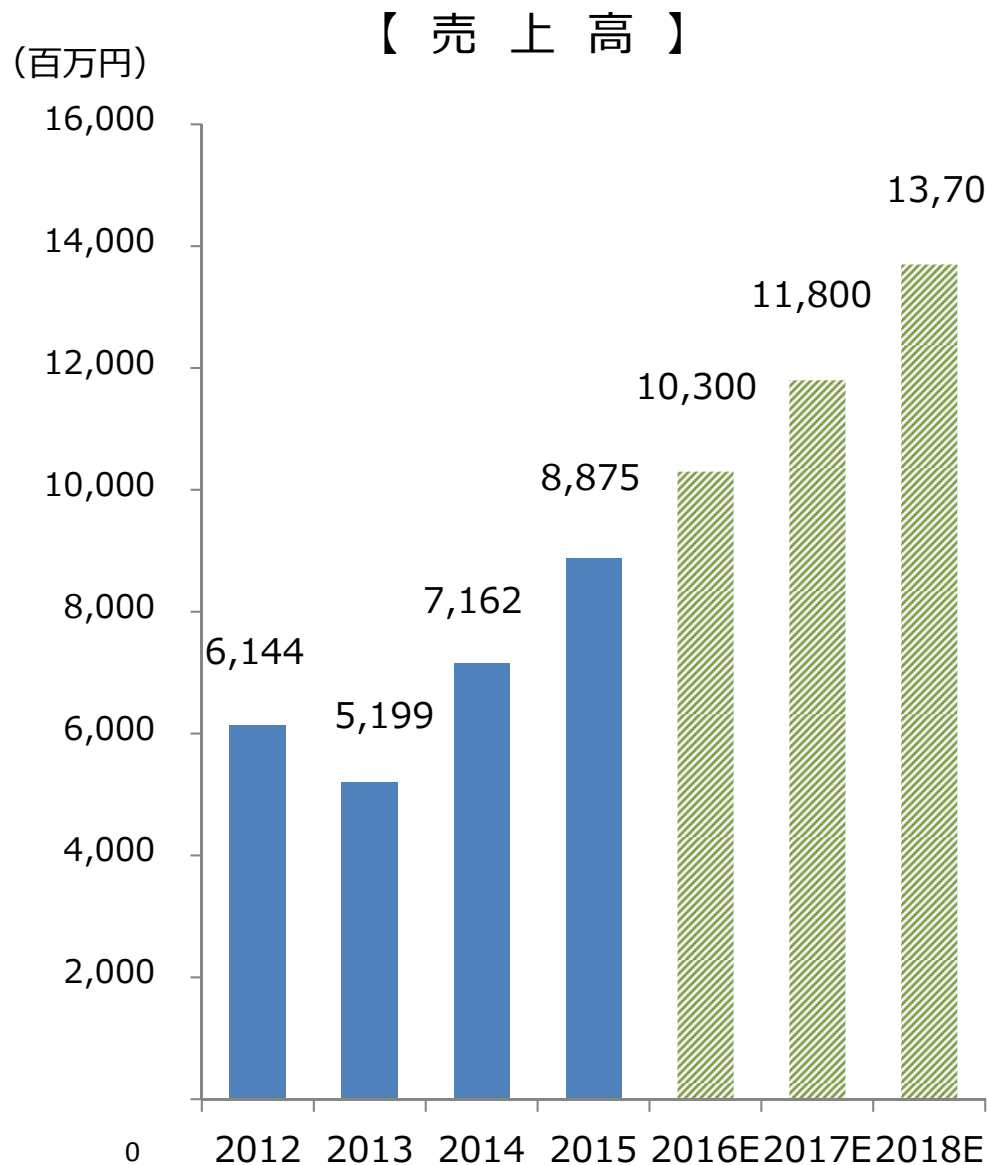
2016年7月稼働



Project Phoenix CSO

医薬品営業支援事業

売上・営業利益の見通し【CSO事業】

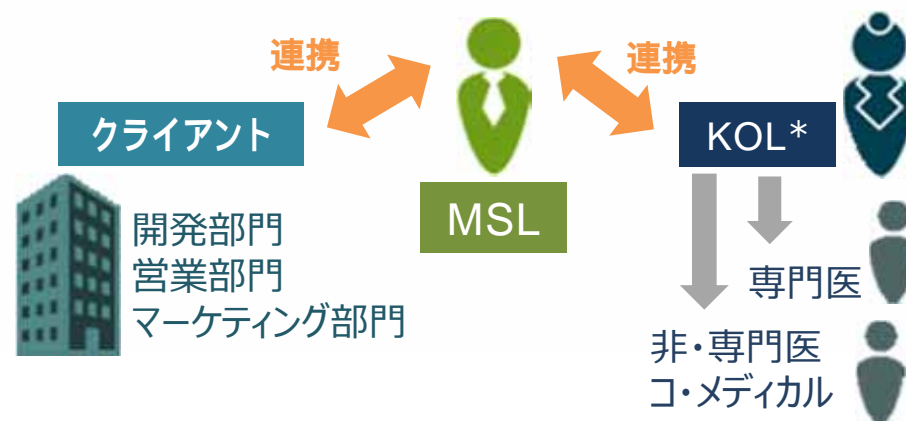


CMASの取り組み

▶ コントラクトMSL (Medical Science Liaison)

従来のMR業務だけではなく、新しい治療法や
医薬品の適正使用など高度な学術情報の提供

**機能分化型MRの供給で
CSOのプレゼンス向上**



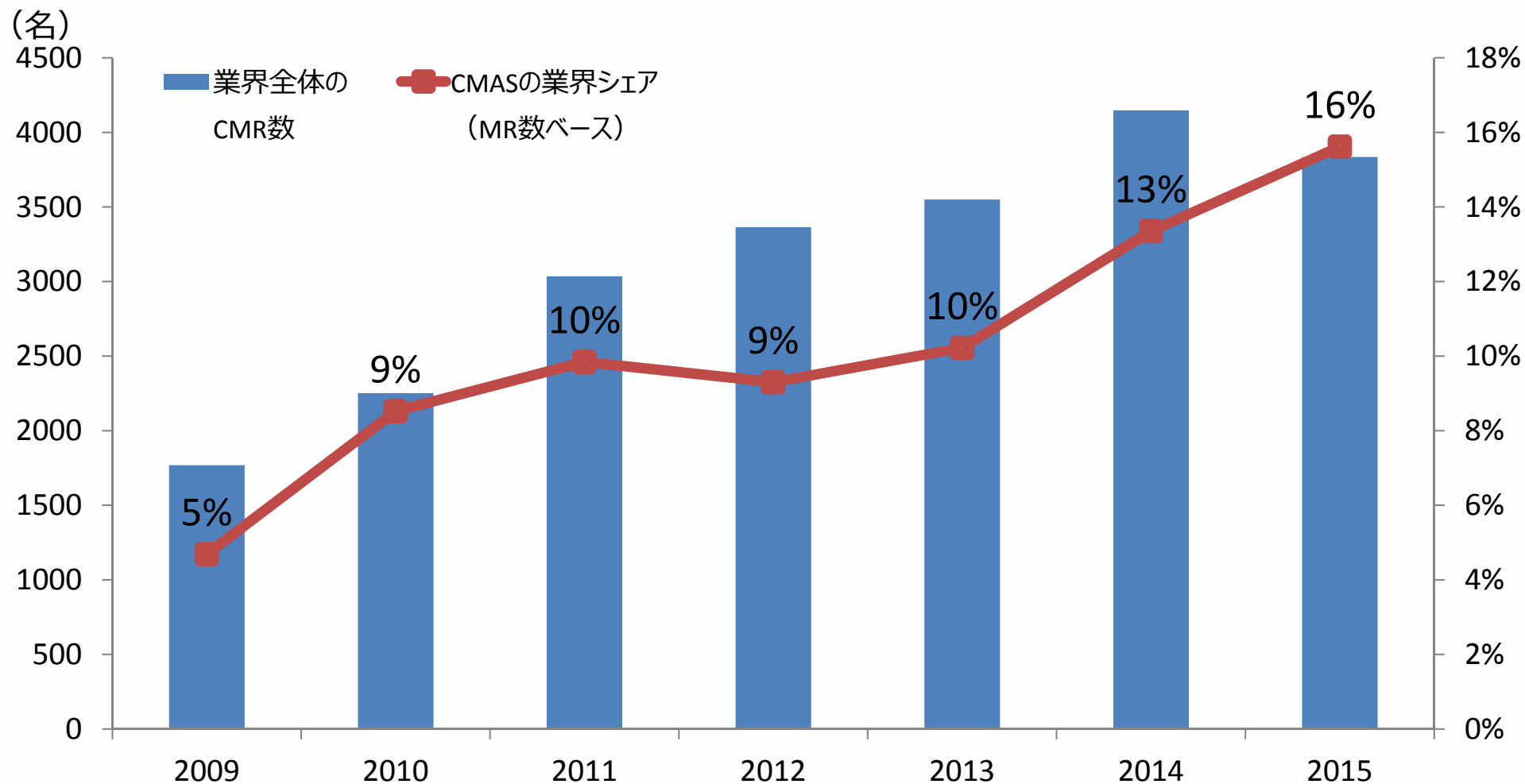
▶ シンジケートチーム

MRは複数社の非競合領域の製品を担当

**専門領域の範囲を拡大
稼働率の向上**

質の向上と多様化するニーズに合わせた
サービス提供へ

コントラクトMR数のシェアが拡大



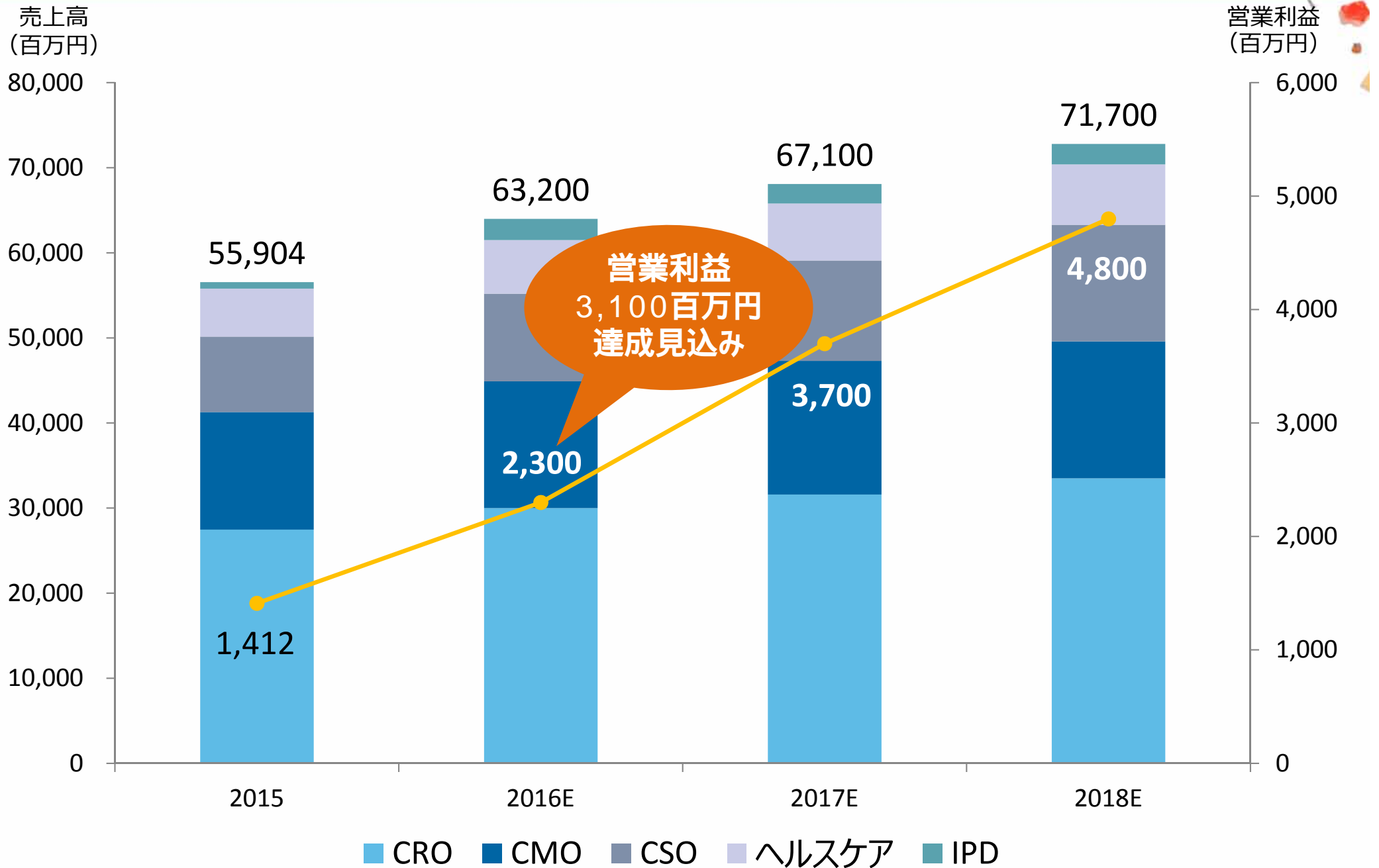
業界全体のCMR数：日本CSO協会

2015年は業界全体のCMR数は減少したものの、
CMASのシェアは拡大（業界No.2）

中期計数計画



中期計数計画 (2015年11月公表)





IPD事業

L-FABPの現況

腎障害の進行・悪化の早期判別ができる バイオマーカーとしての有用性が**国内外**で評価

▶ 体外診断薬

- 診断薬としての承認取得・保険適用
- 腎臓病の予後診断のマーカーとして国際的に評価
 - 日本腎臓学会「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2013」に掲載
 - 腎臓病学団体KDIGOが発行するAKI国際ガイドラインで紹介

▶ 医薬品のスクリーニング

- 動物での評価系の確立
- Tgマウスを活用し、腎臓への副作用が少ない医薬品開発の促進
 - 米国毒性学会学術年会、日本毒性学会学術年会で発表
 - 第5回2015年度 日本毒性学会 技術賞受賞

▶ 臨床試験への応用

- 臨床試験の新規評価方法を開発 ⇒ ニューコンセプトドラッグの開発促進

▶ デジタルヘルスへの応用

- ヘルスアプリケーション開発中（2016AMED事業）

L-FABPの診断薬への応用

ELISA（酵素免疫測定法）L-FABPキット



製造販売承認日：2010年9月24日

保険適用日：2011年8月1日



EUの安全規格に適合：2012年10月

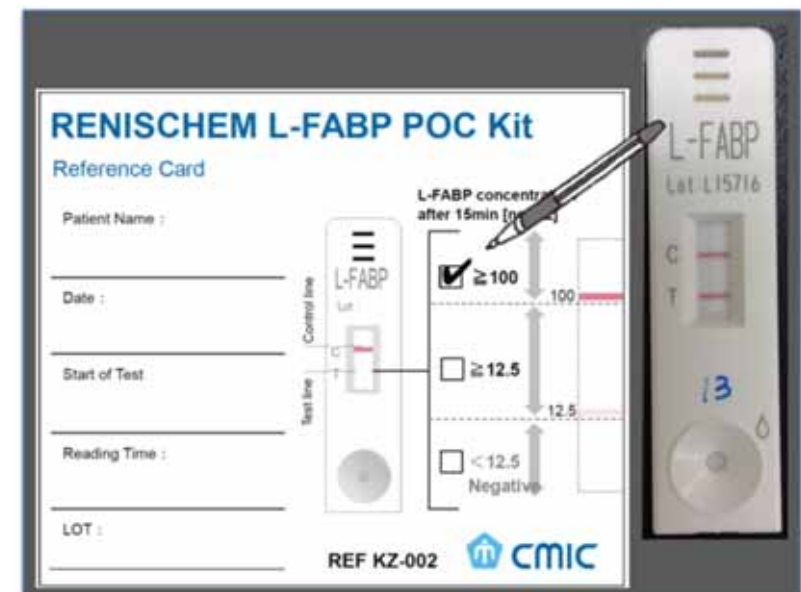
EUでの販売を開始：2012年12月

IVD*自動機器への搭載

- Sekisui Diagnostics社、富士レビオ社等、ライセンサーへの原料供給

新たな取り組み

- 高感度型L-FABPキットの国内認証取得
(2016年4月8日)
- Dip-Test（簡易検査）開発中



Dip-testによるPoint of Care 検査

国内外で展開された健診事業

検尿=“KEN-NYOU (urinalysis)” program
Out patients and community base screening



JICA バングラデシュ疾病管理事業

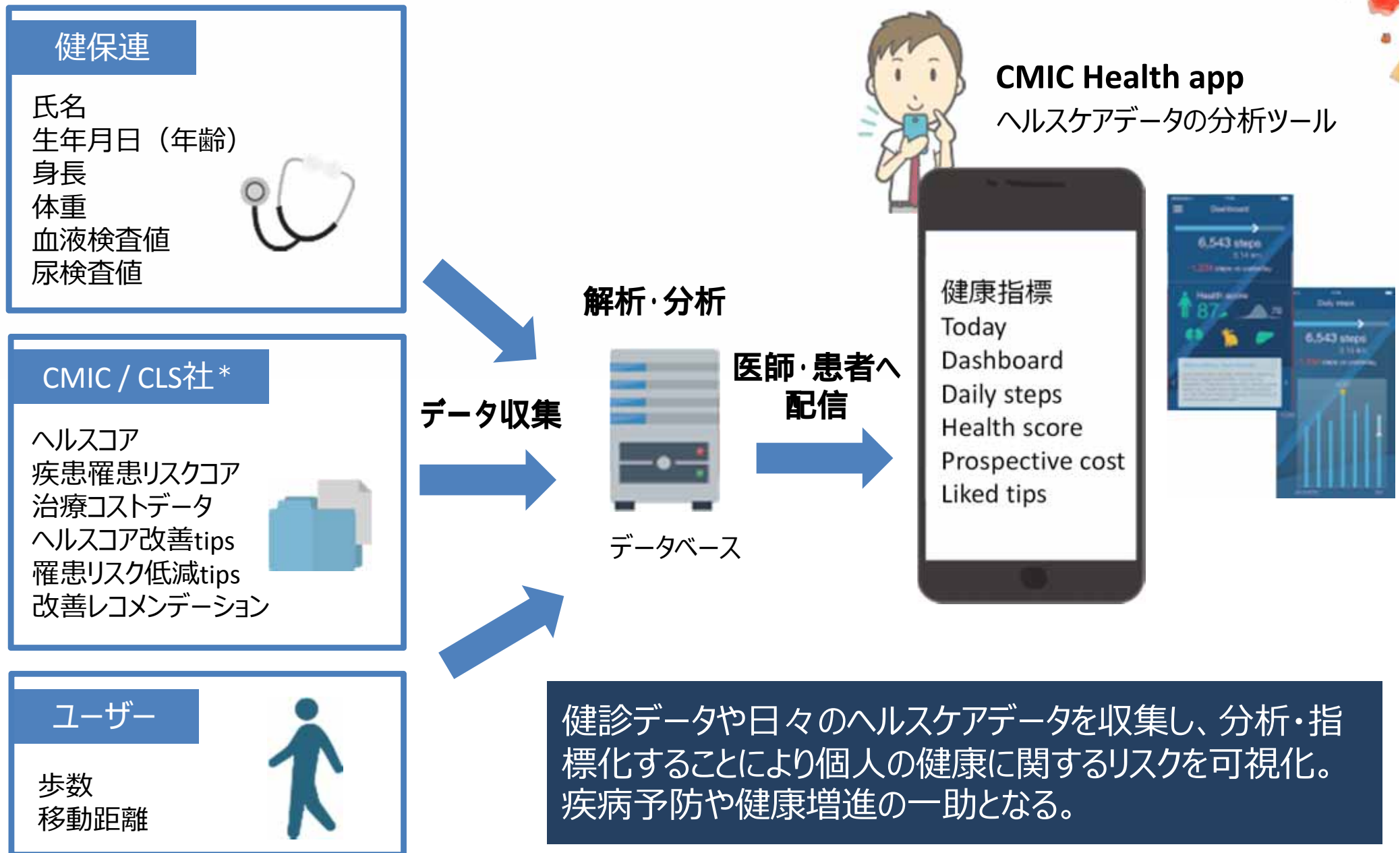


経産省AMED ベトナム腎疾患早期診断事業



企業健保データヘルス 腎ハイリスク健診事業

腎疾患リスク予測精度を高めたヘルスケア アプリケーション（2016AMED事業として開発中）



L-FABP高感度キットの展開

日本腎臓リハビリテーション医学会
Young Investigator Award (YIA)セッション大会長賞 受賞 (2016年3月)

中高齢者に対する定期的な有酸素性運動
トレーニング効果を尿中L-FABPによりモニタリング

筑波大学大学院 人間総合科学研究科スポーツ医学研究室とシミックHDとの共同研究



心筋虚血指標が悪化すると
尿中L-FABPが上昇

持久性運動能力が高い人は
尿中L-FABPが低値

L-FABPが正常範囲内の中高齢者においても、高感度測定により定期的な運動の腎保護効果を評価できる可能性が示された。



さらなる進化に向けて

—ソリューションビジネス—

ソリューションビジネス

バイオ医薬ビジネスソリューション

- ◆ バイオ医薬品開発を総合的に支援

オンコロジービジネスソリューション

- ◆ 専門性が高く特殊な疾患領域であるがん領域のビジネスを総合的に支援

ジェネリック医薬ビジネスソリューション

- ◆ 品質と経済性を追求したジェネリック医薬品の開発・生産を総合的に支援

アカデミアソリューション

- ◆ アカデミア発の革新的な医薬品の創出を総合的に支援

オーファンドラッグビジネスソリューション

- ◆ 薬が必要な希少疾患の患者さんへの安定的な供給を実現

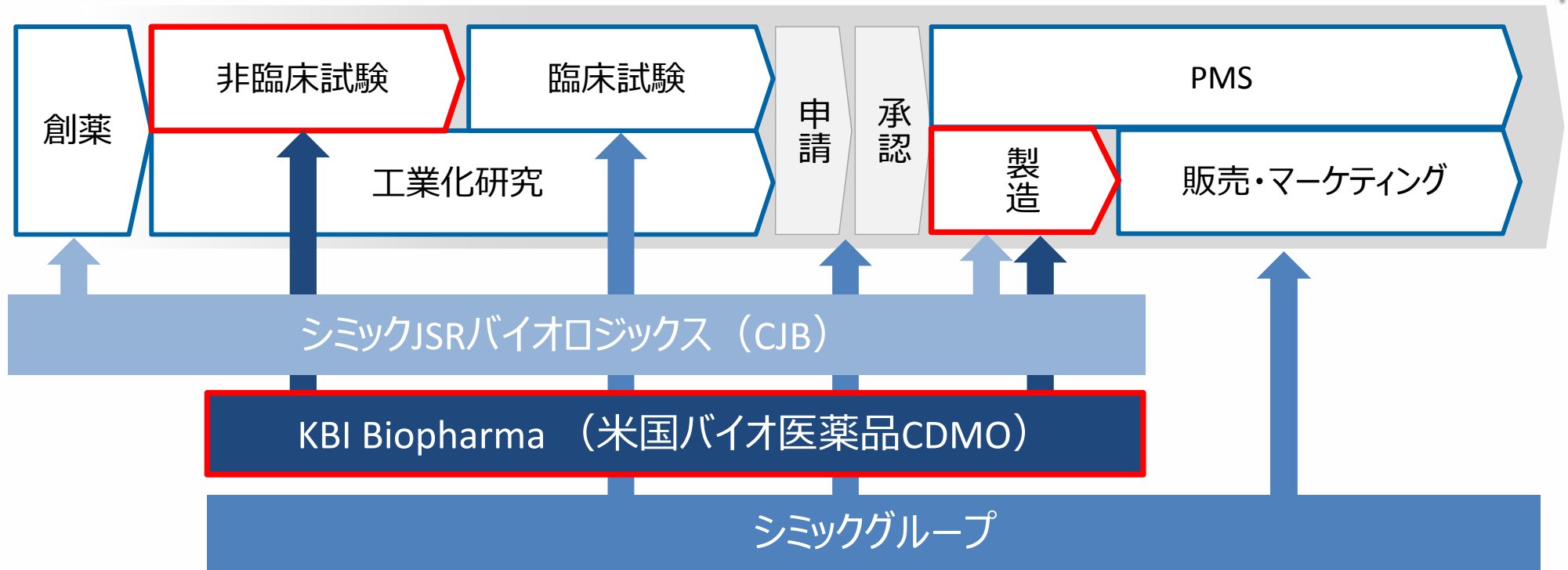
ジャパンビジネスソリューション

- ◆ 世界第2位の大きな市場である日本に基盤がない企業の日本市場参入を支援

生薬ビジネスソリューション

- ◆ 国内薬用植物の安定供給体制の構築とマーケット拡大を支援

バイオ医薬ビジネスソリューション

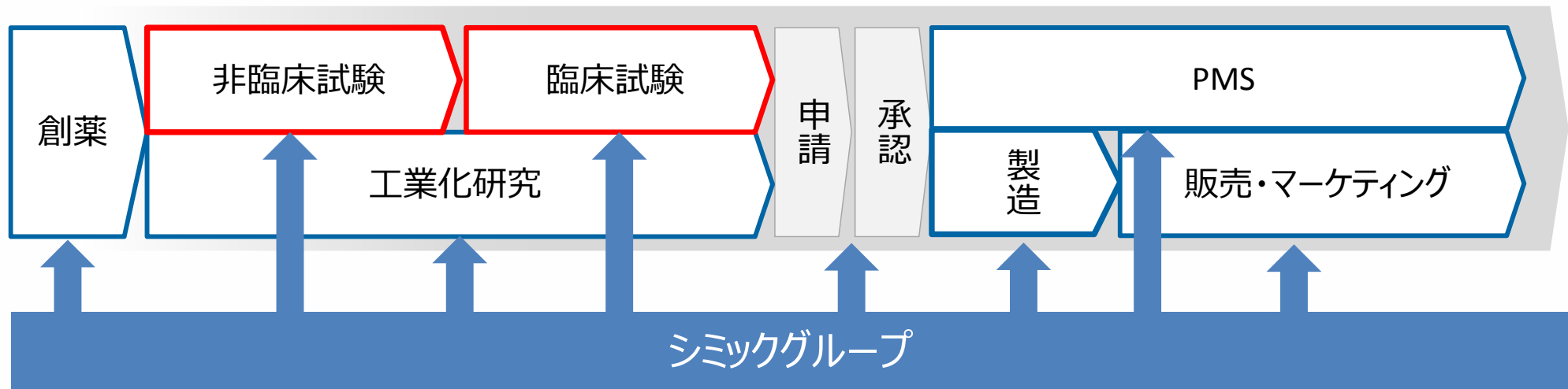


「世界的なバイオ医薬品生産ローコストモデルの確立」

「日本におけるバイオCDMO事業の確立」

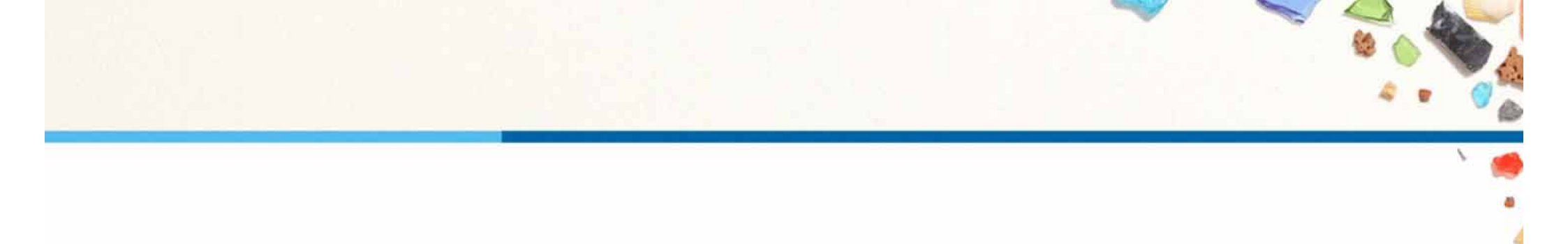
- ▶ CJBによる次世代抗体医薬品の創薬・製造ノウハウ確立
- ▶ KBI（米国バイオ医薬品CDMO）のビジネスノウハウ習得
- ▶ 日米での測定系業務（CMC、BA）の強化
- ▶ バイオ系の技術者を確保
- ▶ JSRとのパートナーシップによる製造のローコストモデルの確立

アカデミアビジネスソリューション



「アカデミアシーズを商品化、アカデミアネットワークを構築」

- ▶ 経営資源の調達（ヒト、カネ、モノ）
 - 公的資金、民間ファンドを含む調達支援
 - Non-clinical CRO業務の提供
- ▶ 開発、製造、販売とフルサポート
- ▶ アカデミア発ベンチャー企業の設立を支援
- ▶ ライセンスイン、アウト（国内外）
- ▶ Orphan Drugに関してはオーファンパシフィックのプラットフォームを利用



『CMICだからできる』
ソリューション展開で

ヘルスケアに**患者目線での革新**を



企業文化の確立

CMIC'S CREED

変えていく。変わらない志を胸に。



転換期であるからこそ、私たちに求められるニーズも多様化・高度化しています。

そのニーズに対応するためには、私たち自身を変えていく気概が必要です。

しかし、変えてはいけないものもあります。

それが「CMIC S CREED」です。

「CMIC S CREED」

私たちの決意

一度しかない人生を、年齢や性別、人種に関わらず、
誰もがその人らしくまっとうしていくために、
ヘルスケア分野に革新をもたらすことを、
シミックグループの志とする。

まばゆい成長力を開花させる幼年でも、
人生を成熟させていく老年でも、
今この瞬間を生きようとする願いは、どれも等しく尊い。
そのすべてをひとつたりとも見過ごすことなく、
正面から受けとめていきたい。

そのために私たちは、いついかなるときも
より良い未来を求める挑戦者でいたい。
そして、自己を変革し、新たな視点を獲得することで、
自らのゆるぎない情熱を価値に変えて、人や社会に提供し続けていく。

変えていく。変わらない志を胸に。

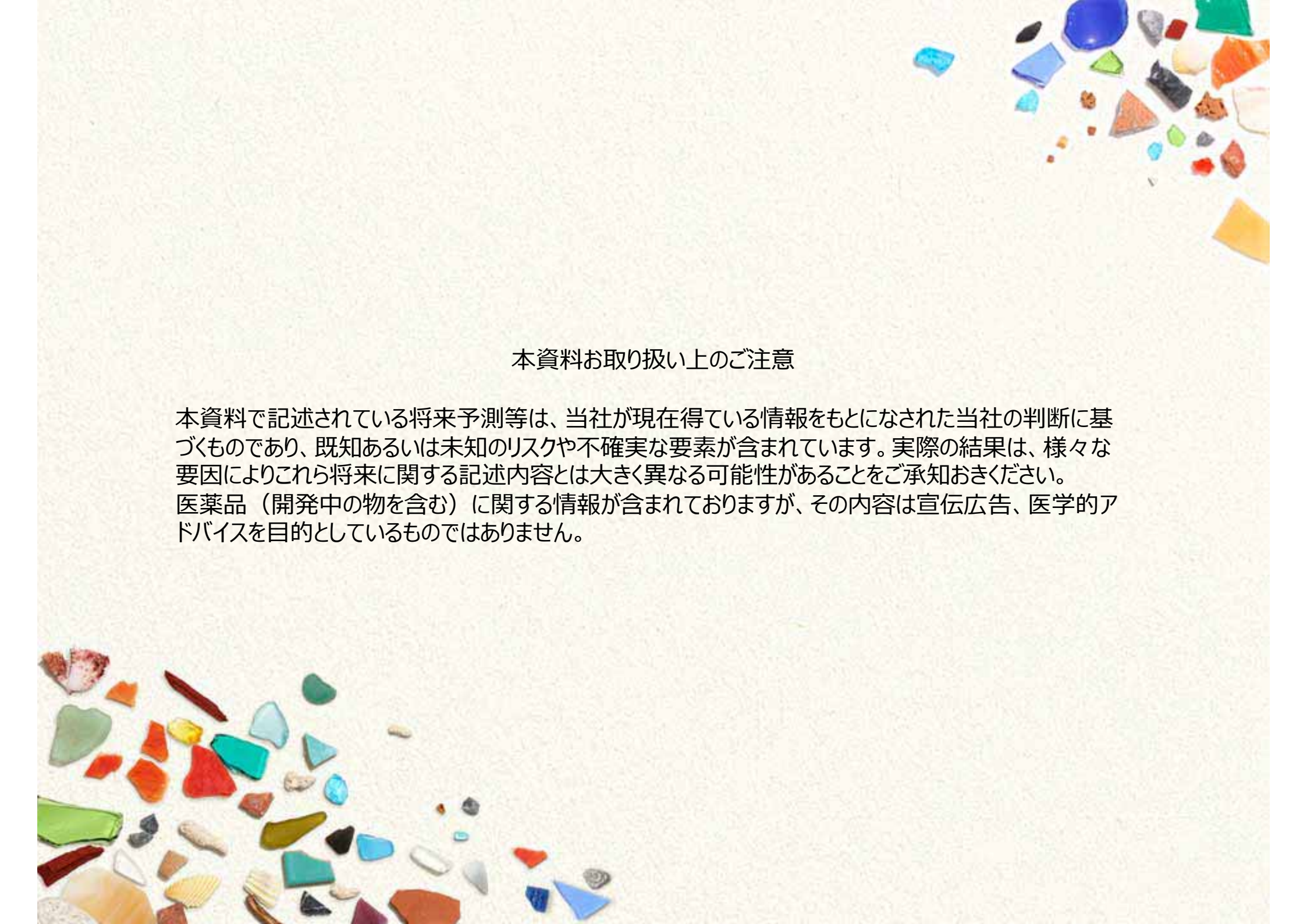




W&3C

シミックカルチャー「wellbeing」と
それを実現するための3C

Thank you for your attention.



本資料お取り扱い上のご注意

本資料で記述されている将来予測等は、当社が現在得ている情報をもとになされた当社の判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確実な要素が含まれています。実際の結果は、様々な要因によりこれら将来に関する記述内容とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。医薬品（開発中の物を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。